平成２４年度、平成２５年度
八女市地域づくり提案事業

地域がいきいきとなる八幡校区振興計画

八幡校区地域振興計画策定委員会

目　次

Ⅰ　八幡校区の現状と将来像を考える
1　八幡校区の振興計画策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　八幡校区をとりまく現状と課題
（1）校区の現状について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（2）八女市の産業構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（3）魅力的と思う働く場所とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（4）社会全体の生活思考とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（5）少子化、高齢化の進展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（6）「同和問題」の解決と人権意識の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（7）農耕社会が色濃く残るメリットとデメリット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（8）豊かな自然環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

3　八幡校区の地域振興をすすめるには
（1）地域の団結と愛着心・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（2）地域での合議性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（3）八幡校区を個性的で魅力あふれた校区にするために・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（4）高齢者から子どもまで仲良く定住するためには・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

Ⅱ　地域がいきいきとなる八幡校区行動計画（地域振興計画）
1　みんなで汗と知恵を出し合う地域づくり（地域コミュニティの育成と連帯）・・・・・・・8
2　思いやりと助け合いの人にやさしい地域づくり（人権と同和教育の推進）・・・・・・・・9
3　自然と共生した住みやすい地域づくり（自然環境保全と農村景観形成）・・・・・・・・・9
4　伝統文化を守り、新しい文化を創造する地域づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5　子供たちが安全で健やかに育つ地域づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
6　高齢者やみんなが元気でいきがい・やりがいを発見できる地域づくり・・・・・・・・・12
7　安心・安全の地域づくり（防犯・防災・交通安全）・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

Ⅲ　八幡の地域振興に思う「九州の暮らし創造研究所　吉田　まりえ」・・・・・・・・・・・14

Ⅳ　資料
・実施計画表（15～）　・アンケート集約表（事務局考察含む）（17～）
・地域振興計画策定委員会委員名簿（43）　・取り組み経過（44）
・会議やワークショップなど写真集（45～）

八幡校区がいきいきとなるために

陽春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。

日頃より、校区発展のため皆様がら御理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

さて、八幡校区では、平成２４年度から「八女市地域づくり提案事業」により、「みんなでつくる、私達の地域（まち）づくり計画書」に着手し、およそ１年半かけて議論して参りました。

これは、少子高齢化が進む今日、校区の住みやすさや活力を維持するために、将来どのような地域にしていくかということをみんなで話し合い、将来の地域像を明らかにし、それをどのようにして実現していくかを整理して活動計画にしていくというものです。

八幡校区には都会的な要素はあまりありませんが、田園風景豊かな自然と人情あふれたコミュニティが農村資源としてあります。そのようなことを基礎としながら、今後も議論していく必要があると思います。

アンケートの集約結果を見て思ったのですが、「生活利便性を高め、雇用の場や若い世代も増えて欲しいし、八幡の自然環境も悪くなってほしくない」と言う思い。

一方子育てや教育面では「競争原理の是非はあるが、高い学力を子どもに持って欲しいし、併せて自然環境の良いところで、思いやり豊かで、元気に成長してほしい」という思いがあり、方向性はなかなか難しいもので、このような話は尽きないと思います。

また、最近では子どもから現役世代、そして高齢者までふれあえる機会少なく、若い人たちや女性が集える場もない。したがって、そのような課題から徐々に進めていき、校区をいきいきとしていくべきと考える次第です。

この計画書づくりにご尽力いただいた各行政区の皆様、各団体の策定委員の皆様、そしてご指導いただいた「九州の暮らし創造研究所　吉田先生」に心よりお礼申し上げます。

今後も、行政にお願いしていく課題はもとより、並行に地域に住む私達が得意の分野を出し合いながら解決していくまちづくりを目指していきたいと考えております。

この計画書をひとつの目標としながら、八幡校区のまちづくりを進めてまいりますので、どうぞ今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成２６年４月１日

八幡校区まちづくり協議会

会　長　　牛　島　眞　道

Ⅰ　八幡校区の現状と将来像を考える

１　八幡校区の振興計画の策定にあたって

≪25.10.15 第２回ワークショップ≫

（１）八幡校区は以前、八女市からの支援を受け、平成１０年度から平成１１年度にかけて「魅力ある地域づくり調査研究」事業に取り組み、提言書をまとめています。当時は校区の各町内をくまなく歩き、各町内の現状、課題、魅力等をまとめながら、地域の人達がみずから汗を流して創り出すまちづくりの手法を学び、資料を作成しています。

今回の地域振興計画策定にあたっては、その成果を十分に活かしながら取り組んできました。

（２）振興計画策定の取り組みは、単に行動計画をつくることが目的ではなく、１４年前の経験を再び呼び起こし、「他人任せ、世話人任せ、行政任せ」から脱却した「制度づくり・組織作り」から「まちづくりの人材育成」を主眼に進めるということに他なりません。

（３）平成２４年７月にまちづくり協議会において準備体制を整え、１０月から策定委員会の設置に向けて議論を開始しました。新たな組織をつくることはかなりのエネルギーを要しましたが、まちづくり協議会を構成する１３行政区及び１６団体より委員を選出し、平成２５年度に入りようやく体制が整いました。

（４）まず、地域の現状を探るために、「地域実態調査委員会」を設置し、八女市内における八幡校区の現状を知るために足を運んだり、市の情報提供など調査を行ってきました。

（５）アンケート作成にあたっては、「アンケート調査委員会」を設置し、１４年前の調査項目を少々現代型に置き換え、「校区の人達の意識がどのように変化しているかを見てみよう」ということから作成しました。

平成２５年６月に各行政区長のご協力により、校区の全世帯７２１世帯２，４６９人中、年齢構成や男女比を考慮した上で１，２６４人の方にお願いし、その結果１，０７４人の回答（８４．９％）が寄せられました。しかし、全世帯に配布することを原則としたため、結果的には高齢化率の高い八幡にあっては、１０代２０代への配布及び回収は低率となり、課題を残す結果となりました。

（６）アンケート調査とは別に、校区の人達の生の声を集約するために「ワークショップ委員会」を設置し、「１回目：現状と課題の出し合い、２回目：アイディアの出し合い、３回目：計画書に反映する内容の絞り込み」を行うために３回のワークショップを行いました。これにより、主要施策と今後の展開指針が明らかになり、２回にわたる全体会で共有化と審議を行ってきました。

２　八幡校区を取りまく現状と課題

（１）校区の現状について

校区の現状を分析するために、八女市全体と八幡校区の人口割合等を調査しました。

その結果、平成２５年４月現在、八女市全体の人口は６８，４５７人（２４，１４３世帯）で、旧八女市は約１４年間で４．４％減少し、お隣の筑後市は４．５％増加となっています。

この人口増加の一番の要因は、交通アクセスにあると思われます。筑後市中心を走るＪＲ（駅３カ所）と最西端の西鉄電車による都市圏への通勤・通学の利便性によるものが大きいと言えます。今後もそのような傾向は続いていくものと考えられます。

高齢化率（６５歳以上）は八女市全体で３０．２％、旧八女市で２５．９％、八幡校区は２９．９％となっており、八女市全域とほぼ変わらない状況です。

子ども（小学生）の在住数については、児童・生徒動態調査（Ｈ２５年４月現在）によると、八女市全体で３，２３９人、旧八女市（８校分）は２，０６７人、八幡小学校は１１３人となっています。また、西中学校の生徒数は２１３人中八幡在住の生徒は６４人（年齢別構成表では７５人が対象）となっています。

（２）八女市の産業構造

八女市は「農林業と伝統工芸」の都市で、市内の企業は伝統工芸に関する事業所が多く、中小零細企業が主と言えます。また、企業誘致により進出した企業の雇用数は比較的少なく、若い世代が求める労働条件を満たす企業も少ないと思われます。

一方、旧八女市の農業は、施設園芸やお茶が中心の形態となっていますが、農業資材や飼料の高騰により激しくなり、さらに農産物の価格低迷で厳しさに拍車がかかる等、農業形態や経営手法は大きく変化しています。

また、米麦を中心とする農家は高齢化が進み、大幅な減少傾向にあり、厳しいながらも施設園芸を中心とした「企業型農業」へと変化しています。

これらの業種は機械化・省力化がより進み、米麦と施設野菜やお茶と葉物野菜と言うような多様な農業形態へと変化し、農地を活用した経営手法を駆使し存続されていますが、農家戸数はもとより、農業就業人口さえも今後減少すると思われます。さらに今後の不安材料としては、ＴＰＰ（環太平洋戦略的経済連携協定）の行方も気がかりとなっています。

八女市の農家戸数のうち販売農家は３，７６６人で認定農業者数は１，０２２人、八幡校区ではわずか２３人となっています。（平成２２年農業サンセスより）

（３）魅力的と思う働く場所とは

若い世代の仕事に対する意識は第１に「安定して一定の収入がある事」第２に「休暇が十分に取れること」第３に「きれいな職場」であり、労働環境が良い職場が就職の大きな条件となっています。

このような条件の雇用の場は、八幡に定住することを原則として考えれば、福岡市や周辺都市圏に働きに行くか、農業でいえば機械化や施設設備の改善と省力化によるお茶・電照菊をはじめとする施設園芸等が考えられます。

農地集積や農業法人型の経営手法による雇用創出も検討しながら、反面、定住型のまちづくりを進める上では、「新幹線筑後船小屋駅や羽犬塚駅が近い」といった利点を生かした施策も必要と言えます。

（４）社会全体の生活思考とは

「職場は都会で、生活は田舎で」の生活パターンやライフスタイルが年齢層に応じて変化しています。

最近のテレビやラジオ番組、及び出版社が発行するツーリズム系雑誌では「山村体験・田舎暮らし・田舎料理」等のテーマや記事が多くなっており、熟年世代を中心に、職場と生活の場を分けて考える傾向にあります。これは、仕事は都会で、余暇の生活は豊かな自然環境の中で野菜などをつくり「スローライフを過ごしたい」の思考の現れと言え、市内でも休日に野菜作りに精を出す人や、貧農園・体験農園においても１０数年前から人気となっています。

（５）少子化、高齢化の進展

八幡校区の課題のひとつは高齢化の進展であり、１４年前の提言書にも示した通り、対策として考えられるのは、地域ふれあいデイサービス等、地域における助け合い運動や、地域における福祉施策の充実、３世代同居の推進等「地域で高齢者を支える体制づくり・生活応援団等のシステムづくり」が重要な視点です。

≪25.10.15 第２回ワークショップ≫

また、公共交通機関が無いことも高齢者にとっては厳しい問題となっており、自家用自動車を運転できない人の交通機関は、八女市が推進している「予約型乗り合いタクシー」を大いに活用していくことが望ましいと考えます。

一方、学校における児童数の減少は全国的な傾向ですが、ここ数年の八幡校区の児童数減少も著しいものがあり、それに対する不安の声は、学校関係者よりも。子どもが独り立ちした現役世代以上の人達から多くあります。「町内で遊ぶ子どもの姿があまり見られない」とか、「今の子どもは土・日は多忙で交流事業ができない」と言った声があり、今後対象者による議論が必要です。

また、アンケートでは「校区全体の小学生の通学路の安全対策、子どもが安心して遊べる自然公園等」の要望が多く寄せられています。

（６）「同和問題」の解決と人権意識の向上

今回実施したアンケート調査の結果を見ても分かるように「同和問題」に対する

意見・要望が如実に出されていました。

「同和問題」の啓発と学習は、単に「同和問題」の解決だけにはとどまらず、私たちの生き方示す道標とも言え、幅広い視点と逆の視野で考えることが重要と言えます。

また、アンケートやワークショップで地域の閉鎖性を指摘する声も多数あり、特に校区への転入者等の人達には「住みにくい」との声も散見されました。

校区の発展のためには、住民が一体となり「同和問題」や地域の閉鎖性の解消に取り組む事が求められます。被差別地区とされる人達のためだけではなく、「限りない愛着と誇りを感じる八幡校区づくり」のために精神的バックボーンとして、すべての住民が人権に関する諸会議やイベント等に結集し、地域の閉鎖性の解消と「同和問題」の解決、人権意識の向上に向けての議論を進めることが必要と思われます。

（7）農耕社会が色濃く残るメリットとデメリット

≪カヌー教室水難救助訓練≫

アンケートでは、先にふれたように、やはり今回も地域の閉鎖性や「町内の出ごとがたいへん」という声が多数見られました。各町内には、伝統行事・各町内自治のための行事や各種団体等があり、それぞれが地域のコミュニケーションの確保や、地域自治のために重要な役割を果たしています。これらの行事の多くは、農業を中心とした「農耕社会」を前提として、行事等の日程が組み込まれており、現在の校区の現状を見ると、「農耕社会」とは生活パターンがなじまない「サラリーマン層」が増大していることも念頭に置いた地域づくりが求められます。

反面、主要な各行政区の行事等は、各行政区内全世帯による寄り合いで論議し、行政区の運営や、その地域の維持管理を積極的に実施する制度が残っており、この合議制は大変貴重な制度であり、今後も大切にすべきシステムです。

（8）豊かな自然環境

今回のアンケートでも、数多くの人が八幡校区の自然環境の良さを絶賛されています。豊かな田園風景がひろがり、四季を感じる生活、矢部川の流れ、その土手から見た校区の風景、豊かな水辺空間、彩りを添える農産物等、八幡校区は魅力にあふれています。

八幡校区を取り巻く自然環境を、以前から住んでいる者は、当たり前の事と受け止めていますが、都会の人から見ると、「なんと贅沢な暮らし」と言われる方も多くあります。今後、都市と農村の交流を通じて、八幡を見つめなおす機会づくりが求められます。

３　八幡校区の地域振興をすすめるには

（１）地域の団結と愛着心

≪いちご大福づくり：女性活動連絡会≫

地域からの恩恵や、行政からの支援のみを期待するばかりでなく、みんなで地域を良くしたいとの思いを寄せる人も多く見られます。

その精神的支えとなっているのは、やはり地域の団結力であり、地域に対する愛着心だと思われます。

「住みよいまちづくり」の第１条件は、「地域をよくしたいという意欲がある地域か」、第２に「住みよい地域づくりを実践できるリーダーがいるか」が前提となります。

アンケートの「定住傾向」という設問の中で、住み続けたいという方が７６．７％あり、そのような校区に骨をうずめてもよいという人たちが中心となり「地域を良くしたい、住みやすくしたいという意欲」を結集し進めていくと意外とまとまりやすいかもしれません。

（２）地域での合議制

先にもふれたように、各行政区での行事等頻繁に町内全員による会議がおこなわれており、「地域自治制度」が残っています。

都市部では、町内の会議は無くなる傾向にあり、「地域をどうするか」を地域の人で論議する地域自治組織が形骸化の傾向にあると言われています。

各行政区ではいろんな会合により、町内行事等を決定し、それを各家庭が町内で何が行われているか判っていて、町内行事に対する決定権があります。

しかしアンケートでは、「もっと自由に発言できる雰囲気づくり」の意見等が出されており、男女がともに担う地域づくりの視点も重要です。アンケートでも多くの人が指摘しているように、今後、校区全体を良くするための、行政区長会と各種団体代表者が集まった校区全体の協議機関の設置が求められます。

（３）八幡校区を個性的で魅力あふれた校区にするために

アンケートの結果をみると、八幡校区という農村に、工場や住宅地の共存を求める声が多くみられますが、これは雇用の場が近くにないことが背景にあると推察できます。しかし、このような地域づくりをめざすことには、慎重な論議が必要です。まずは地域の特性を分析し、活かすことから地域振興を進めるべきと考えます。

水田の横にアパートや団地が建設され、消毒（防除ヘリ含）、草刈り、農繁期の農業機械による不快原因、ワラ燃やし、また、施設園芸の暖房機やお茶畑の防霜ファンによる騒音等、畜舎から発生する臭気等により、農業従事者と団地住民とのトラブルが発生したり、元からの住民と転入されてきた住民との価値観との違いによ

るトラブル等、農村と都市型感覚の相違によるトラブル発生の事例は数多くあります。

これらの状況を考えると、どのような校区の将来像をめざすのか、今後もじっくり議論していく必要があります。

先にも述べたように、八幡校区は「職場は都会で、生活は田舎の自然環境が良い所で暮らす」というライフスタイルに一番マッチした校区と言えます。

したがって、校区の自然環境、農業を中心とした豊かな農産物等を大切にしながらも、地域の閉鎖性等のデメリットを解消し、住みやすい環境をつくり、住民がいきいきと生活できれば、校区の魅力は倍増するものと思われます。

≪西高宮校区との農村交流≫

（４）高齢者からこどもまで仲良く定住するためには

今回のアンケートによると、八幡の今後のイメージについて、「校区の魅力を生かした助け合い、ふれあい住みよい校区」「自然環境を生かした農業を中心とした校区」「こどもの安全、防犯・防災が充実した校区」を合わせると６２．３％の方が求めてあり、わたしたちのめざす校区の将来像は、やはり１４年前に掲げた「３世代が仲良く暮らせる校区」を変える必要はないと思います。

この将来像（目標）は、都会では考えられない地域像であり、家族の絆を強めることはもちろんのこと、高齢者介護や子育て、また空き家・防犯対策、伝統行事の継承等の課題解消のふくみがあります。

≪第１８回ふれあい広場≫

アンケートでは「究極の理想であり、ナンセンスだ」という意見もありますが、子ども達が元気に駆けまわる農村地域や家庭は誰もが望んでいることです。そのためには、私たちが暮らしやすい校区づくりを私たちの手でひとつひとつ積み上げながら実現しなければなりません。

その実現にはもちろん行政の支援も不可欠であり、私達ができ得ないことは当然求めていくことに他なりません。

私達に必要なことは、行政や行政区長、世話人に任せっぱなしにしておかずに、校区に住む魅力や、魅力を引き出す方法を町内や参画する団体、また家庭で話すことであり、それが私たちの地域がいきいきとなる出発点だと思われます。

したがって、引き続き「親子３代が仲良く暮らせる校区づくり」を将来像としな

がら、「地域でできることは地域で」、「みずから考え、自ら解決する」、「善の循環のまちづくり」を基本姿勢とし、地域の振興に努めていくべきと考える次第です。

Ⅱ　地域がいきいきとなる八幡校区行動計画（地域振興計画）

【八幡校区の将来像（目標）】
■親子三世代が仲良く暮らせる校区
【基本姿勢】
■地域でできることは地域で・・
■みずから考え、自ら解決する・・
■善の循環のまちづくり・・この３点を基礎に行動計画を策定します。
※その他、必要なハード（建設的）事業、ソフト（啓蒙的）事業については、部会や実行委員会を設置した上で取り組みます。

◎はじめに
少子高齢化や過疎化の進行、景気低迷と地方財政の危機的状況に反映され、行政サービスだけによる地域福祉サービスの充実や活力ある地域づくり施策は、現代にあっては住民ニーズ通りには進みにくい傾向にあります。
住民が参加する機会を多くし、住民が主体的にモノづくり、制度づくり、問題の解決等自立・創造・連帯の地域づくりを進める必要があります。
まちづくり協議会及び行政区長会を中心に「行政に依頼しなければできないこと」と「自分たちでもできること」を類別し、「みずから考え、自ら解決する」を基本に、実行委員会や部会を設置し進めることとします。

１　みんなで汗と知恵を出し合う地域づくり（地域コミュニティの育成と連帯）
地域住民と民間の事業者、市民団体等が得意な技能分野を出し合い、連帯して地域づくりを楽しく進める「地域コミュニティ豊かな協働によるまちづくり」が求められます。
そのため、住民が「汗をかき、道具や技能・知恵を出し合い」コミュニティ活動を行う仕組みを作りながら、以下の「交流活動、スポーツイベントの充実、人材育成活動」を実施します。
（１）具体的には・・
①各町内の行事や事業については、行政区単位で議論し取組ます。
②「ふれあいとすばらしい自然の再確認」を目的とした「ふれあいカヌー教室」を実施します。
③「八幡だいすき・みんな大好き・人権のまちづくり」をテーマに、八幡の秋の祭典「ふれあい広場」を開催します。
④「賑わいとふれあい・助け合い文化の再生」をテーマに、子ども、現役世代、高齢者という家族３世代が昭和の風情や飲食物を懐かしみ、一昔前の生活環境や、地

域のコミュニケーションのあり方を伝える一つの場として、土曜夜市を開催します。
⑤校区のまちづくりを推進するために１３行政区等による「多世代交流スポーツ大会」を開催します。
⑥その他、ふれあいウォーキング、相撲大会の実施に向け調査研究を行います。
⑦自立・連携の地域づくりに向けた人材育成のため、視察研修や講演会などの研修を行います。
（２）現在実施中の活動における団体等
　各行政区・青少年健全育成会・子ども会育成会・消防団・交通安全協会・よかとこ会・めだか塾・老人会・ＰＴＡ・解放同盟・読書ボランティア・小学校・地域住民
※各実行委員会・体育部会
（３）今後の実施主体
　①行政区　②地域福祉部会　③人権推進部会・地域振興部会　④⑦地域振興部会　⑤⑥体育部会
（４）実施時期
　①実行中　②現状維持と拡充　③④⑤⑦現状維持　⑥調査研究後、平成２７年度当初に方向性を決定

２　思いやりと助け合いの人にやさしい地域づくり（人権と同和教育の推進）
　アンケートの回答を見るとわかるように、障がい者、同和問題、こども、高齢者、女性、インターネットの悪用等、人種をテーマとする課題も多様化しています。
　すべての人達が多様性を認め合う「思いやりと助け合い」の、人にやさしい八幡を形成できるように人権に対する教育や啓蒙が必要です。
　まちづくり協議会に参画する各行政区・団体の呼び掛けにより、人権をテーマとする事業に数多く参加していただくように取り組む必要があります。
（１）具体的には・・
　①人権をテーマとしたイベントや講演会を開催し、多くの人達が参加されるように、周知徹底を図ります。
　②「ひとにやさしく互いの価値観や多様性を認め合う感性」を養い、子どもたち及び校区内住民の人権意識を高めるために、地域・家庭・学校の連携による研修会等を実施します。

（２）現在実施中の活動における団体等
　各行政区・解放同盟・よかとこ会・ＰＴＡ・小学校・地域住民
（３）今後の実施主体
　①②人権推進部会
（４）実施時期

①②現状維持と充実

３　自然と共生した住みやすい地域づくり（自然環境保全と農村景観形成）

八幡校区は、矢部川の恩恵を受けた肥沃な農地、米麦・野菜を中心に、古くから農業が基幹産業とされています。このような先人から受け継いでいる貴重な財産を維持管理し、緑豊かな景観と自然に触れ合う事ができる地球環境づくりが求められます。

水路や道路、花いっぱいの地域を自らが維持管理し、ゴミ分別の徹底や温暖化ガスの低減等、環境への負荷が少ない循環型地域社会づくりに向け、今後も「自ら考え、自ら行動する」を基本に、環境保全・環境保全活動を進めなければなりません。

農村景観の保全（徐草や田畑の整備)、水生生物が宿る河川環境、花いっぱい運動等、「各行政区、ＡＦＣ、環境保全団体」等において行われる活動を継続し、「不法投棄をしない、させない雰囲気・意識づくり」が必要です。また、農産物価格の低迷や後継者不足により農地の荒廃も目立ってきています。農業の自然界における多面的機能を理解し、地産地消や農地の有効活用を進める必要があります。

（１）具体的には・・

①町内の公園・お宮・納骨堂・周辺道路・河川について、清掃や美化活動及びポイ捨て禁止活動等を行います。

②道路・河川の愛護活動を行います。

③ゴミ分別の徹底と生活排水浄化の啓蒙を行います。

④ゴミ置き場の整備や不法投棄防止啓発については、調査研究を行い、部会で取りまとめた上で進めます。

⑤耕作放棄地対策と農地の有効利用について、貸借の斡旋や集積型農業法人への移行等具体的に調査研究する部会を設置し進めます。

⑥共同農園・貸農園についても、調査研究する部会を設置し、進めます。

（２）現在実施中の活動における団体等

各行政区・各町内環境保全団体・ＡＦＣ・めだか塾・子ども会・市民

（３）今後の実施主体

①②③④環境美化部会　⑤⑥地域振興部会

（４）実施時期

①現状より拡充　②③現状維持　④現状維持と同時に調査研究　⑤⑥調査研究後、平成２７年度当初に判断

４　伝統文化を守り、新しい文化を創造する地域づくり

八幡校区にも史跡や特色のある構造物があります。これは先人たちの知恵や工夫の現れであり、協働の地域づくりを目指す上では教えとも言えます。

「温故知新」は、高度経済成長により忘れ去られてきた論語であり、今こそ必要な考え方とも言えます。

アンケートの伝統行事の設問では、「古くからのしきたりによる町内の出ごとが多い」という声と「今後も進化させるべき」という声がありますが、「現状もままでいい」という声が圧倒的に多くありました。行事の歴史的要素と経過を明らかにし、対象とされる住民に周知・説明をする事が納得性に繋がります。

したがって、地域で年間に行われる行事「１２月、１月、彼岸月等」の伝統行事を知り、次世代へつなぐ活動を検討する必要があります。

また、子どもたちやその保護者への伝統的手芸の作り方や、校区の歴史的著名人を紹介する機会（広報物の発行等）を設定することも重要な事です。

アンケートの要望事項に各町内に現存する史跡や建造物の補修が挙げられています。今後、まち協の中で議論し対応を検討しなければなりません。

（１）具体的には・・

①子ども達やその保護者等へ、伝統的加工品等の作り方教室を行います。

②校区内の史跡や構造物を再度調査し、協議した上で補修等の対応を決定します。

③校区の歴史的著名人の伝説物語を子どもたちに読み聞かせを行います。

④校区の成り立ちや歴史上の著名人の伝説を伝える広報活動を実施します。

（２）現在実施中の活動における団体等

各行政区・青少年健全育成会・子ども会育成会・老人会・ＰＴＡ・読書ボランティア・小学校・地域住民

（３）今後の実施主体（構成する団体・個人）

①②③④地域振興部会

（４）実施時期

①③現状維持　②調査研究を行い平成２８年度当初に判断

④調査研究を行い平成２８年度より実施

５　子ども達が安全で健やかに育つ地域づくり（子育て支援活動）

アンケートの結果からみると、八幡校区は「子供が育つ環境によい」と答えた方が多く、また、安全な通学路や遊び場を要望されています。

核家族化や少子化、女性の社会進出の増加が進む今日、児童や子育てに係る地域や家庭環境は大きく変化してきました。

旧来は「地域全体で子供を見守り、育てる」というコミュニティが数多く見受けられてましたが、それも希薄化してきました。

地域のヒューマン的財産といえる子どもたちの子育てについて、３世代、４世代が交流し解決できる仕組み作りが必要です。そのため、地域・家庭・学校との連携により、元気なあいさつ運動や、生きる力を学ぶ世代間交流等、社会教育活動の推進について具体的に協議します。

また、通学路の安全確保については、下校時のみまもり活動や登下校ルートの周知、危険個所の点検活動等も重要な課題となっています。

（１）具体的には・・

①積極的に声をかけあう等「元気なあいさつ運動」を実施します。
②想像力や言語能力を高め、感性を豊かにするため、小中学生への読み聞かせを実施します。
③子どもたちが「自ら考え取り組む」企画を提供し、生きる力を身につける昔の遊びや知恵を伝授する世代間交流事業や、キャンプ・野外活動を実施します。
④子ども達の居場所づくりを目的としたアンビシャス運動を実施します。
⑤子どもたちが主体となったレクリエーションやスポーツ大会を実施します。
⑥夏休み中に地域一体となった「ふれあいラジオ運動」を実施します。

（２）現在実施中の活動における団体等

各行政区・子ども会育成会・青少年健全育成会・読書ボランティア・老人会・ＰＴＡ・小学校・民生児童委員会・女性活動連絡会・地域住民　※防犯・安全委員会

（３）今後の実施主体

①地域振興部会・住民　②③④⑤⑥地域福祉部会

（４）実施時期

①現状より拡充　②～⑥現状維持

６　高齢者やみんなが元気で生きがい・やりがいを発見できる地域づくり

八幡校区の高齢化率は、平成２５年度現在で２９％を上回っており、ほぼ八女市全体平均と変わらない状況です。また、高齢者のみの世帯や独居世帯も増え続け、買い物や病院への送迎、公共交通体制の充実等、多く要望されています。行政の制度を活用すると同時に、地域ぐるみで見守り・支援する「助け合い文化」を再生することが求められています。

さらに、介護の必要な人が増える一方で、自立した元気な高齢者もおられ、このような人たちが「生きがい・やりがい」を発見できるよう機会づくりを行い、高齢者の知恵を活用・継承し、地域交流、世代間交流を行うことも地域振興の重要な視点です。同時に、病気や介護の予防につなげることができるような取り組みも求められます。

また、男女がともに担う地域づくりを活性化させ、地場産品直売やプライベートブランド品製品の研究、そして地域の人がふれあい、情報交換ができる場を作ることも高い要望となっています。

（１）具体的には・・

①　独居老人宅等には、定期的に「愛の声かけ運動」を行います。
②　社会福祉協議会の支援により各町内において行っている「ふれあいサロン」については今後積極的に取り組みます。
③　八女市予約型乗合タクシーを積極的に活用するために、利用者による呼びかけや校区機関紙により周知を行います。
④　多目的広場を活用し、スポーツ・レクリエーション等、高齢者の健康増進を図ります。

⑤　健康作りの推進として、能動を利用した散歩コースの案内と整備を行います。
⑥　食をテーマとした教室や座談会を開催し、食の健康の増進を図ります。
⑦　高齢者や女性農家の「生きがい・やりがい」づくりとして、直売所への出荷や試食会等を実施します。
⑧　簡易な農産物等直売所や農産加工品工房の設置については、今後調査研究を行います。

（２）現在実施中の活動における団体等

各行政区・老人会・体育部会・民生児童委員会・めだか塾・女性活動連絡会・地域住民

（３）今後の実施主体

①③地域福祉部会・住民　②④⑤⑥地域福祉部会　⑦⑧⑨地域振興部会

（４）実施時期

①現状より拡充　②③現状維持と拡充　④現状維持
⑤⑦⑨調査研究後、平成２８年度当初に判断
⑥調査研究後、平成２７年度当初に判断
⑧試食会は現状維持と拡充、出荷体制は調査研究後、平成２８年度当初に判断

７　安心・安全の地域づくり（防犯・防災・交通安全）

自然災害、火災等への対応、変質者・空き巣や車上荒らし対策、交通安全対策等

地域で防災・防犯、安全意識を高め、有事における基本行動をマニュアル化するとともに、周りに対して校区の抑止力を高めることが、安心・安全と犯罪・事故防止に繋がります。

校区あらゆる団体が連携して、災害・犯罪・事故等を「起きない・起こさない」強い地域、住みよい校区に作り上げる必要があります。

（１）具体的には・・

①各行政区で自主防災体制を組織し定期的に訓練を行います。
②自然災害や火災の際の避難場所への誘導体制をつくり、災害図上訓練を行うとともに、避難者への支援体制を作ります。
③変質者及び空き巣や車上荒らしによる被害防止のため、住民意識の向上を図ることにより、町内の監視体制を強めます。
④交通安全対策として、定期的な見守りや子ども達への指導・誘導を行います。
⑤小学校の通学コースや安全ハウス、また危険な道路・場所等を示す「安全マップ」を定期的に見直し作成します。
⑥校区内の危険な場所や犯罪が見られる地点などを定期的にパトロールします。
⑦犯罪や事故の抑止力を高め、危険予知認識を深めるために講演会を開催します。

（２）現在実施中の活動における団体等

各行政区・消防団・交通安全協会・民生児童委員会・地域住民　※防犯・安全委

員会

（３）今後の実施主体

①～⑦防犯安全部会

（４）実施時期

①③現状維持　②２年間で調査研究を行う　④現状より拡充　⑤現状維持（隔年で作成）　⑥現状維持と充実（２６年度より再開）　⑦現状維持（年１回）

Ⅲ　八幡の地域振興に思う

この度は、八幡校区地域振興計画の策定、おめでとうございます。

八幡校区は、１０年以上前に御縁があり今回、久しぶりにお伺いさせて頂きました。

今回は地域振興計画の策定委員の皆さんの主導のもと、ワークショップの運営等の一部を担当させて頂きました。八幡校区は、もともと地域活動が盛んな地域でもあり、多くのご意見がありました。その実現に向けて、地域づくりの３つの取り組み方をご紹介させて頂きます。

１つは、地域の皆で話し合いをしながら、皆で暮らしの安心安全をつくる地域づくり。

今回の地域振興計画で最もご意見が多かったのはこの地域づくりでした。高齢化して車に乗れなくなった時の生活支援や子育て等。ただ、地域活動は、高齢化が進む中、地域役員も重複があり多忙な状況が見受けられます。少しづつ、行事や役割を整理する必要もあります。ポイントは、１つのことで複数の課題を解決する「重層化」です。行事で集まる、高齢者の見守りもする、子どもも参加する等、複数の事を同時に解決できる方法に見直しをしたり、共催したりすることが考えられます。そのためには。地域活動の全体像の情報共有から始めてみるとよいようです。

２つ目はある特定のテーマに関心がある人や趣味や得意なことがある人が仲間づくりをしながら進めていく地域づくり。

今回は、女性の方たちが八幡の特産品づくりのアイデアを出して下さいました。地域のためになる事を、やりたい人が、仲間を集めて、楽しみながら取り組むものです。地域の魅力を活用して、地域の人の楽しみをつくる、交流する機会を作る、人の役に立つこともできる。これは、今後、社会問題になる「孤立化」を予防することに繋がります。好きなこと、やりたいことをして、楽しく無理せず長続きさせるのがポイントです。

そして３つ目は、ある特定の人がリーダーシップを発揮して進めていく地域づくり。

八幡校区は農業にとても適した環境だと伺っています。八幡校区の農業をどうするか、農業従事者が中心となり組織のあり方を考え実行していく、リーダーシップを発揮していく分野になります。地域づくりは、人が住むことが前提であり、仕事の有無は大変重要です。企業誘致もあるかもしれませんが、今ある農業をどうするか、ＴＰＰ等、国の政策が大きく変換する中で、真剣に考えていく時期でもあります。

最後に、これからの地域づくりは、女性の参画なくして成功はありません。今後の八幡校区の皆さんが、３世代がそれぞれ輝いて暮らしていける地域となることを祈念しております。

２０１４年3月２６日

九州の暮らし創造研究所　吉田　まりえ

Ⅳ　資　料

1　地域振興計画実施計画表

2　アンケート集計・集約表

3　アンケートに係る事務局考察

4　アンケートの各行政区配分表

5　地域振興計画策定委員及びワークショップ委員等名簿

6　振興計画策定の取り組み経過

7　活動写真

八幡校区地域振興実施計画表

平成26年3月作成

---------->	調査・研究期間（実行する人を部会で選考）
----------▶	調査・研究または事業継続協議を行った上で実施予定
——————▶	実施及び作成期間

基本目標1　みんなで汗と知恵を出し合う地域づくり（地域コミュニティの育成と住民連帯活動）

	主要施策	具体的な取り組み	今後の実施主体	実施時期と実行する人材・組織づくり等	調整期間及び実施する時期と期間						
					25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
1	地域交流活動	①各町内の行事や事業の開催	行政区								▶
		②ふれあいカヌー教室の開催	地域福祉部会	現状維持と拡充							▶
		③ふれあい広場の開催	人権推進部会 地域振興部会	現状維持							▶
		④夜市の開催	地域振興部会	現状維持							▶
2	スポーツイベントの充実	⑤多世代交流スポーツ大会	体育部会	現状維持							▶
		⑥ふれあいウォーキングの開催	体育部会	協議・選考	<----	---->	----------	----------	----------	----------	----------▶
		⑥相撲大会の開催	体育部会	協議・選考	<----	---->	----------	----------	----------	----------	----------▶
3	協働まちづくりの人材育成	⑦視察研修の実施	地域振興部会	現状維持							▶
		⑦自立・連帯の地域づくり研修会の実施	地域振興部会	現状維持							▶

基本目標2　思いやりと助け合いの人にやさしい地域づくり（人権と同和教育の推進）

	主要施策	具体的な取り組み	今後の実施主体	実施時期と実行する人材・組織づくり等	調整期間及び実施する時期と期間						
					25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
1	人権意識の向上	①イベントや講演会の開催	人権推進部会	現状維持と充実							▶
		②学校やPTAとの連携	人権推進部会	現状維持と充実							▶

基本目標3　自然と共生した住みやすい地域づくり（自然環境保全と農村景観形成の活動）

	主要施策	具体的な取り組み	今後の実施主体	実施時期と実行する人材・組織づくり等	調整期間及び実施する時期と期間						
					25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
1	公共用水・道路及び施設の維持管理	①町内の公園・お宮・納骨堂等の清掃	環境美化部会	現状より拡充							▶
		①町内の周辺道路・河川等の清掃や美化活動	環境美化部会	現状より拡充							▶
		②道路・河川の愛護活動	環境美化部会	現状維持							▶
2	自然環境の保全	③ゴミ分別の周知徹底	環境美化部会	現状維持							▶
		③生活排水浄化の啓蒙	環境美化部会	現状維持							▶
		④不法投棄やポイ捨て禁止の啓発	環境美化部会	現状維持 協議・選考		<---->					▶
		④ゴミ置き場の整備	環境美化部会	協議・選考		<---->					▶
3	農村の景観形成	⑤耕作放棄地対策	地域振興部会	協議・選考		<---->	----------	----------	----------	----------	----------▶
		⑥協同農園、貸農園の設置	地域振興部会	協議・選考		<---->	----------	----------	----------	----------	----------▶

基本目標4　伝統文化を守り、新しい文化を創造する地域づくり

	主要施策	具体的な取り組み	今後の実施主体	実施時期と実行する人材・組織づくり等	調整期間及び実施する時期と期間						
					25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
1	伝統文化の継承	①伝統的加工品等、作り方教室の実施	地域振興部会	現状維持							▶
2	伝統文化財の保存	②史跡や構造物の調査と補修活動	地域振興部会	協議・選考		<----------	---------->	----------	----------	----------	----------▶
3	伝統文化・芸術活動の推進	③歴史的人物に関する物語を読み聞かせ	地域振興部会	現状維持							▶
		④歴史的経過や人物の広報活動	地域振興部会	協議・選考		<----------	---------->	----------	----------	----------	----------▶

基本目標5　子どもたちが安全で健やかに育つ地域づくり（子育て支援活動）

	主要施策	具体的な取り組み	今後の実施主体	実施時期と実行する人材・組織づくり等	調整期間及び実施する時期と期間						
					25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
1	子育て支援の充実	①元気なあいさつ運動の実施	地域振興部会 住民	現状より拡充							▶
		②小中学生への読み聞かせの実施	地域福祉部会	現状維持							▶
2	生きる力の理解促進	③昔の遊びや知恵を伝授する教室	地域福祉部会	現状維持							▶
		③キャンプや野外活動の実施	地域福祉部会	現状維持							▶
		④アンビシャス運動の実施	地域福祉部会	現状維持							▶
		⑤子どもたち主体のレクリエーションやスポーツ大会の開催	地域福祉部会	現状維持							▶
		⑥「ふれあいラジオ体操」の実施	地域福祉部会	現状維持							▶

基本目標6　高齢者やみんなが元気で生きがい・やりがいを発見できる地域づくり

	主要施策	具体的な取り組み	今後の実施主体	実施時期と実行する人材・組織づくり等	調整期間及び実施する時期と期間						
					25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
1	高齢者への支援	①独居老人宅等への「愛の声かけ運動」	地域福祉部会 住民	現状より拡充							→
		②ふれあいサロンの積極的取り組み	地域福祉部会	現状維持と拡充							→
		③乗り合いタクシーの積極的利用	地域福祉部会 住民	現状維持と拡充							→
2	健康づくりの推進	④多目的広場を活用した健康増進活動	地域福祉部会	現状維持							→
		⑤散歩コースの案内と整備	地域福祉部会	協議・選考		←-	-→	←-	-→		
		⑥食育座談会の実施	地域福祉部会	協議・選考		←-	-→				→
3	「生きがい・やりがい」特技を生かした産業づくり	⑦情報交換の場や機会を設定	地域振興部会	協議・選考		←-	-→				→
		⑧農産加工品試食会の開催	地域振興部会	現状維持と拡充							→
		⑧直売所への出荷体制確立	地域振興部会	協議・選考		←-	-→				→
		⑨農産物等直売所の設置	地域振興部会	協議・選考		←-	-→				→
		⑨農産加工所の設置	地域振興部会	協議・選考		←-	-→				→

基本目標7　安心・安全の地域づくり（防犯・防災・交通安全）

	主要施策	具体的な取り組み	今後の実施主体	実施時期と実行する人材・組織づくり等	調整期間及び実施する時期と期間						
					25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
1	防犯対策の充実	①自主防災組織で定期的に訓練を行う	防犯安全部会	現状維持							→
		②避難場所への誘導体制をつくる	防犯安全部会	協議・選考		←-	-→				
		②避難者への支援体制をつくる	防犯安全部会	協議・選考		←-	-→				
2	防犯対策の実施	③町内の監視体制を強化	防犯安全部会	現状維持							→
3	交通安全対策の充実	④定期的にこども達等への指導・誘導を行う	防犯安全部会	現状より拡充							→
		⑤校区安全マップの作成	防犯安全部会	現状維持		←→		←→		←→	
		⑥防犯安全パトロールの実施	防犯安全部会	現状維持と充実							→
		⑦防犯安全講演会の開催	防犯安全部会	現状維持							→

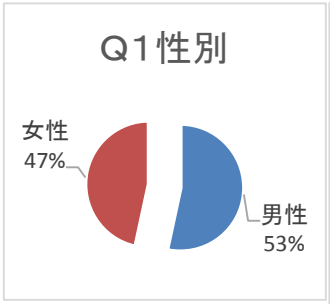
アンケート集計・集約表

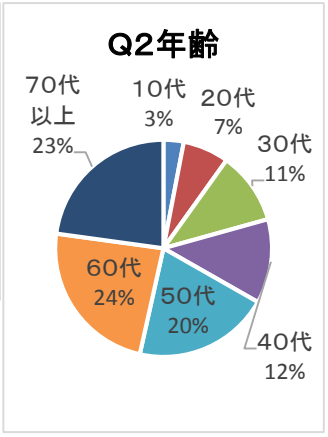
◎住みよい地域づくりアンケート設問内容

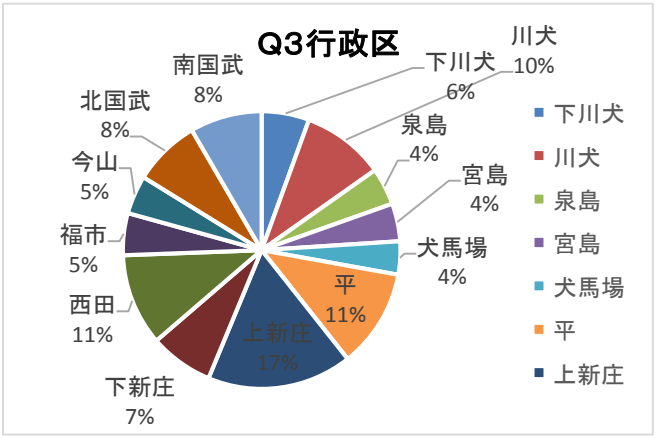
１　性別
２　年齢
３　行政区
４　八幡校区の在住年数（定住傾向）
５　家族構成
６　主な職業や収入源について
７　休日の過ごし方について
８　魅力を感じるかについて
９　八幡校区は住みよい地域かについて
１０　住みよいと答えた人の理由
１１　住みにくいと答えた人の理由
１２　八幡校区の定住傾向について
１３　住みやすいと答えた人の理由
１４　転居したいと答えた人の理由
１５　子どもの育つ環境について
１６　若者にとって住みよい校区かについて
１７　高齢者にとって住みよい校区かについて
１８　女性にとって住みよい校区かについて
１９　男性にとって住みよい校区かについて
２０　日用品の買物について
２１　市外で買い物される人の理由について
２２　町内行事・出事・各団体の活動について
２３　子どもや孫との同居について
２４　不足している機関や施設について
２５　直売所や加工所について
２６　伝統行事について
２７　八幡校区の今後のイメージについて
２８　道路整備について
２９　特に整備が必要な道路（路線）について
３０　住宅誘致について
３１　住宅誘致の方法について
３２　子どもの育つ環境について
３３　若者の居住定着について
３４　高齢者の生きがい対策について
３５　住みよい地域になるには
３６　女性が住みやすい校区について
３７　親子３世代が住み続けるためには
３８　企業誘致について
３９　企業誘致の種別について
４０　校区に欲しい施設について
４１　人権という言葉で思うことについて
４２　人権問題の関心について
４３　人権が尊重される地域の取り組みについて

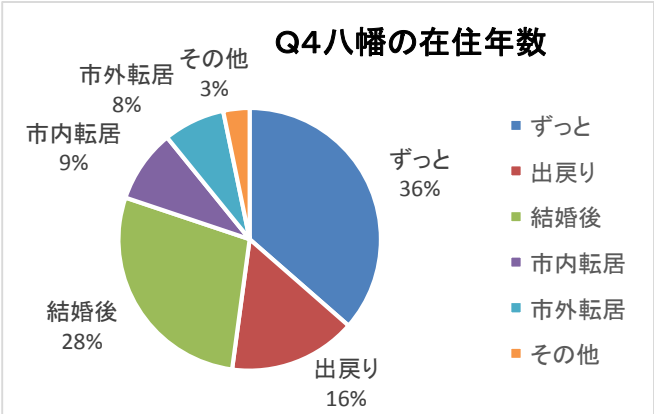
住みよい地域づくりアンケート集計表

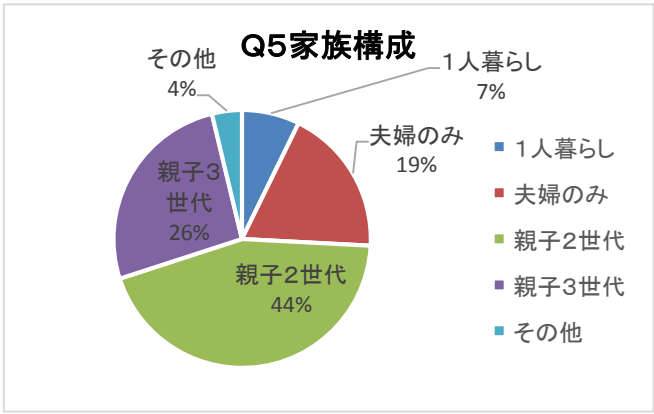
		現在	平成11年
Q1性別	男性	572	311
	女性	499	336
	計	1071	647
Q2年齢	10代	32	76
	20代	74	75
	30代	116	84
	40代	135	105
	50代	218	107
	60代	254	109
	70代以上	245	91
	計	1074	647
Q3行政区	下川犬	59	33
	川犬	103	61
	泉島	46	23
	宮島	47	27
	犬馬場	41	26
	平	122	81
	上新庄	180	113
	下新庄	79	44
	西田	114	61
	福市	52	29
	今山	48	32
	北国武	83	56
	南国武	89	61
	計	1063	647
Q4八幡の在住年数	ずっと	393	258
	出戻り	170	83
	結婚後	302	174
	市内転居	97	65
	市外転居	82	45
	その他	35	15
	計	1079	640
Q5家族構成	1人暮らし	77	50
	夫婦のみ	198	109
	親子2世代	470	239
	親子3世代	279	191
	その他	40	37
	計	1064	626











住みよい地域づくりアンケート集計表
配布方法：行政区を通じ、年代別に分け配布　アンケートの実施：平成25年6月
回答総数（1，074） 配布部数（1，264） 回収率（84．9%）

Q4　八幡校区にいつ頃から住んでいますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1．生まれてからずっと住んでいる。	393	36.4	258	40.3
2．八幡で生まれ一時期市外に住んだが、また戻ってきて住んでいる。	170	15.8	83	13.0
3．結婚してから八幡に住むようになった。	302	28.0	174	27.2
4．市内（旧八女市）の他校区から転居して住んでいる。	97	9.0	65	10.2
5．他市町村から転居して住んでいる。（合併前：黒木、立花、上陽、矢部、星野は市外）	82	7.6	45	7.0
6．その他	35	3.2	15	2.3
計	1079	100	640	100

■八幡校区の定住傾向
14年前と比較して、ほぼ変わらない傾向にあります。

Q5　家族構成についてお答えください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1．1人暮らしの世帯	77	7.2	50	8.0
2．夫婦だけの世帯	198	18.6	109	17.4
3．親子2世代の世帯	470	44.2	239	38.2
4．親子孫3世代の世帯	279	26.2	191	30.5
5．その他	40	3.8	37	5.9
計	1064	100	626	100

■家族構成について
「親子2世代の世帯」が増加し、「親子孫3世代」の世帯が減少しています。子どもの独立による高齢者世帯が増加している可能性があります。

Q6　ご家庭において、生計を立てている主な職業や収入源を教えてください。下記の中から1つだけ選んでく

設問内容	現在		前回なし	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1．農業や自営業の収入が主である。	213	19.8		
2．お勤め等サラリーマン収入が主である。	484	45.0		
3．年金の収入が主である。	333	31.0		
4．不動産等の収入が主である。	5	0.5		
5．その他	40	3.7		
計	1075	100		

■主な職業や収入源について
専業農家より、兼業農家、サラリーマン等の世帯が多くなっています。

Q7　主な休日の過ごし方についてお聞かせください。（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1．家でのんびり過ごすことが多い。	581	38.9	315	47.4
2．福岡市等繁華街でのショッピングに外出することが多い。	115	7.7	72	10.8
3．遠方へのドライブや温泉・観光地等で静かな時間を過ごすことが多い。	156	10.5	46	6.9
4．農作業や家庭菜園等の手入れ等で過ごすことが多い。	305	20.5	129	19.4
5．趣味やスポーツを楽しんでいる。	240	16.1	0	0.0
6．市内や地域でのボランティア等の活動が多い。	29	1.9	0	0.0
7．その他	65	4.4	103	15.5
計	1491	100	665	100

■休日の過ごし方について
「家でのんびり」「農作業や家庭菜園」「趣味やスポーツ」「ボランティア」「その他の内容」を合わせて前回と比較すると、地元で過ごされる意向はほぼ変わらない事がわかります。遠方へ出かけられる人が増えており、活動的な人が多い事がわかります。

Q8　八幡校区に魅力を感じますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 非常に魅力を感じる。	56	5.4	46	7.2
2. 少し魅力を感じる。	297	28.6	148	23.2
3. あまり魅力を感じない。	327	31.5	217	34.1
4. 魅力を感じない。	181	17.4	139	21.8
5. わからない。	178	17.1	87	13.7
計	1039	100	637	100

■魅力を感じるかについて
「非常に魅力を感じる」「少し魅力を感じる」が30．4%から34%に上昇し、「あまり魅力を感じない」「魅力を感じない」が55．9%から48．9%に減少しています。また、「魅力を感じない」ほうが3．4併せて多いですが、「魅力を感じる」割合の方が多くなっています。

Q9　八幡校区をはじめ八女市は住みよい地域だと思いますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 住みよい	243	23.0	117	18.3
2. どちらかと言えば住みよい。	462	43.7	222	34.8
3. どちらかと言えば住みにくい。	169	16.0	156	24.5
4. 住みにくい。	88	8.3	88	13.8
5. わからない。	95	9.0	55	8.6
計	1057	100	638	100

■八幡校区は住みよい地域かについて
「住みよい」「どちらかと言えば住みよい」が前回より13．6%増えています。

Q10　上記のQ9で「住みよい」「どちらかと言えば住みよい」と答えた方はその理由を下記の中から3つ以内でお答えください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 田園風景など自然環境に恵まれている。	446	28.7	225	27.7
2. 公害や自然災害が少ない。	383	24.6	225	27.7
3. 住み慣れて愛着がある。	397	25.5	224	27.6
4. 人情があり地域の連帯感がある。	149	9.6	76	9.2
5. 日常の買い物に便利である。	88	5.7	18	2.2
6. 物価や家賃が安い。	16	1.0	12	1.5
7. 通勤・通学などの交通の便が比較的良い。	33	2.1	7	0.9
8. 良い働き場所がある。	4	0.3	5	0.6
9. 教育環境に恵まれている。	12	0.8	8	1.0
10. 体育・文化施設が利用しやすい。	8	0.5	0	0.0
11. 医療、福祉施設が充実している。	16	1.0	2	0.2
12. その他。	3	0.2	11	1.4
計	1555	100	813	100

■住みよいと答えた人の回答
前回より増えたのが「日常の買い物に便利」「交通の便が比較的よい」「医療、福祉関係」ですが、これは、校区外近辺に直売所やスーパーができたことや、新幹線駅が船小屋にできたこと、歯科医や福祉老人施設（2か所）ができたことではないかと思われます。

Q11　Q9で「どちらかと言えば住みにくい」「住みにくい」と答えた方は、その理由を下記の中から3つ選んでください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 自然環境が良くない。	24	2.9	6	0.7
2. 公害や自然災害の心配がある。	15	1.8	7	0.9
3. 通勤、通学等の交通の便が悪い。	125	14.9	127	15.8
4. 働く場所が少ない。	80	9.5	78	9.7
5. 日常の買い物が不便である。	139	16.5	135	16.8
6. コンビニやスーパーがない。	154	18.3	113	14.1
7. 古いしきたりや出ごとが多い。	116	13.8	126	15.7
8. 人間関係や風習に馴染めない。	44	5.3	59	7.3
9. 教育環境が良くない。	6	0.7	16	2.0
10. 公共施設が整っていない。	47	5.6	33	4.1
11. 医療、福祉施設が充実していない。	76	9.0	90	11.2
12. その他。	14	1.7	14	1.7
計	840	100	804	100

■住みにくいと答えた人の理由
　前回より増えたのが「コンビニやスーパーがない」ですが、上記設問と相反して、校区内への誘致要望が伺えます。「自然環境」「公害や自然災害の心配」が微増していることについては、検証してみる必要があります。

Q12　これからも八幡校区に住み続けたいと思いますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答率	回答数	回答率	回答数
1. 今後も住み続けたい。	536	53.1	274	42.7
2. 当分住み続けたい。	240	23.8	120	18.7
3. できれば転居したい。	61	6.0	77	12.0
4. すぐに転居したい。	1	0.1	14	2.2
5. できれば住みたくないが、仕方なく住んでいる。	138	13.7	134	20.9
6. その他。	34	3.3	23	3.5
計	1010	100	642	100

■八幡校区の定住意向について
「住み続けたい」と答えた人が15．4%増加していますが、これは10代、20代の回答数が低かったことを考慮すれば、前回とあまり変わらない傾向と考えます。

Q13　Q12で「今後も住み続けたい」「当分住み続けたい」と答えた方は、その理由を下記の中から1つだけ選んでください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 仕事の関係。	115	14.1	76	19.0
2. 人情が厚いから。	21	2.6	21	5.3
3. 親の面倒を看なければならないから。	74	9.1	69	17.3
4. 住環境が良いから。	64	7.8	50	12.5
5. 自然環境が良く住みやすいから。	112	13.7	136	34.0
6. 住み慣れた所だから。	409	50.1	0	0.0
7. その他	22	2.6	48	11.9
計	817	100	400	100

■住みやすいと答えた人の理由
　今回「住み慣れた所だから」を設問に加えたところ、圧倒的に多く、都会的要素は何もないが、現在の定住者にとっては比較的住みよい地域であることが伺えます。

Q14　Q12で「できれば転居したい」「すぐに転居したい」「できれば住みたくないが～」と答えた方は、その理由を下記の中から1つだけ選んでください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 通勤、通学に不便だから。	40	14.1	34	16.8
2. 買物や医療状況が悪いから。	73	25.8	59	29.2
3. 地域の風習や出ごとが多いから。	73	25.8	37	18.3
4. 子どもの教育環境が良くないから。	4	1.4	6	3.0
5. 働く場所が少ないから。	38	13.4	27	13.4
6. 人間関係が悪いから。	25	8.8	15	7.4
7. 住環境が悪いから。	17	6.0	13	6.4
8. その他。	13	4.7	11	5.5
計	283	100	202	100

■転居したいと答えた人の理由
　前回と比較して「地域の風習や出ごとが多い」が7．5%増加しています。人口が少なくなり、少子高齢化が進む中で、中間の現役層への負担は重くなっている可能性があります。しかし、防犯・防災、医療・福祉、環境保全、子育て支援、地域づくり等、農村部には不可欠なコミュニティであり、負担を軽減する方策を検討する一方、地域連帯の理解を深めることが求められます。

Q15　八幡校区は子どもの育つ環境としては良い校区だと思いますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 非常に良い。	80	8.2	56	9.2
2. 比較的良い。	554	56.5	314	51.6
3. あまり良くない。	93	9.5	76	12.5
4. 良くない。	20	2.0	29	4.8
5. わからない。	229	23.4	130	21.3
6. その他。	4	0.4	4	0.7
計	980	100	609	100

■子どもの育つ環境について
　前回と比較すると「良い」と答えた人が3．9%増え、「良くない」と答えた人が5．7%減っています。

Q16　八幡校区は若者にとって住みよい校区だと思いますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 非常に良い。	15	1.5	16	2.7
2. 比較的良い。	272	26.5	132	22.0
3. あまり良くない。	307	30.0	186	31.1
4. 良くない。	93	9.1	96	16.0
5. わからない。	329	32.0	169	28.2
6. その他。	9	0.9	0	0.0
計	1025	100	599	100

■若者にとって住みよい校区かについて
　10代、20代の回答数が少ないため考察出来にくい結果となりました。

Q17　八幡校区は高齢者（65歳以上）にとって住みよい校区だと思います

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 非常に良い。	68	6.5	60	9.8
2. 比較的良い。	419	39.9	236	38.5
3. あまり良くない。	225	21.4	133	21.6
4. 良くない。	79	7.5	52	8.5
5. わからない。	247	23.5	128	20.9
6. その他。	13	1.2	4	0.7
計	1051	100	613	100

■高齢者にとって住みよい校区かについて
　前回と比較するとほぼ同じ意向であることが伺えます。

Q18　八幡校区は女性にとって住みよい校区だと思いますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 非常に良い。	22	2.3	27	4.6
2. 比較的良い。	336	35.3	155	26.6
3. あまり良くない。	176	18.5	144	24.7
4. 良くない。	57	6.0	74	12.7
5. わからない。	354	37.3	183	31.4
6. その他。	6	0.6	0.0	0.0
計	951	100	583	100

■女性にとって住みよい校区かについて
　前回と比較すると、「良い」と答えた方が6．4%増え、「よくない」は12．9%減っています。しかし、「わからない」が5．8%増えています。

Q19　八幡校区は男性にとって住みよい校区だと思いますか

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 非常に良い。	28	2.9		
2. 比較的良い。	377	39.5		
3. あまり良くない。	142	14.9		
4. 良くない。	57	6.1		
5. わからない。	340	35.6		
6. その他。	10	1.0		
計	954	100.0		

■男性にとって住みよい校区かについて
　男女がともに担う地域づくり方針により、今回からの設問に加えましたが、「非常に良い」「比較的良い」と答えた人が、42．4%となり、男性にとっては、比較的住みよい校区であることがうかがえます。

Q20　食料品などの日用品は主にどちらで買い物されますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 校区内の店。	6	0.6	97	15.6
2. 主に市内の店。	894	83.5	494	79.4
3. 主に市外の店。	156	14.6		
4. その他。	15	1.3	31	5.0
計	1071	100	622	100

■日用品の買物について
　前回と比較して、八幡校区内で日用品を買物できる店舗が減少したために、このような結果になったことがうかがえます。

Q21　Q20で「主に市外の店」と答えた方は、その理由を下記の中から一つだけ選んでください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 品ぞろえが多いから。	76	27.8	252	42.6
2. 他のものと同時に買いたいから。	49	17.9	164	27.7
3. 安くて新鮮だから。	49	17.9	131	22.2
4. 自宅が近いから。	80	29.3	0	0.0
5. その他。	19	7.0	44	7.4
計	273	100	591	100

■市外で買い物される人の理由について
　今回の設問に「自宅が近いから」を選択肢に加えたところ、約30%の人が答えています。これは、八幡校区に近い筑後のスーパーから主な日用品を購入されている事が考えられます。

Q22　各行政区（町内）の出ごとや行事、また各団体の活動についてどう思われますか。下記の中から1つだけ選んでください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 地域のつながりや人間関係を維持するため積極的に参加している。	212	20.5	98	16.5
2. 地域のためなら増やしてもよい。	50	4.8	18	3.0
3. 行事や出ごとが多すぎる。	188	18.2	132	22.2
4. 現状のままでよい。	392	37.9	232	39.1
5. 面倒だが仕方なく参加している。	148	14.3	79	13.3
6. その他。	43	4.2	35	5.9
計	1033	100	594	100

■町内行事・出ごと・各団体の活動について
　前回と比較して、50代以上の回答が多かったため、比較が難しいですが、ほぼ前回と同様の傾向と考えま

Q23　自分の子どもや孫に校区内に住んでほしいと思われますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. できれば同居か、2世帯住宅内で住んでほしい。	170	17.2	127	22.0
2. 同居しなくても校区内に住んでほしい。	115	11.6	39	6.8
3. 市内に住んでほしい。	179	18.1	75	13.0
4. 県内に住んでほしい。	144	14.5	90	15.6
5. どこでも良い。	348	35.2	218	37.8
6. その他。	34	3.4	28	4.9
計	990	100	577	100

■子どもや孫との同居について
　同居意識が低くなっていますが、「校区内に住んでほしい」を加えれば、前回同様の28．8%となっています。3世代が仲良く暮らす校区づくりを14年前から目指していますが、農業や雇用の低迷により、仕事の関係で子育て世代が市外へ転居することが余儀なくされている現状は否めません。一方で、「子どもや孫が幸せに生活でき、将来帰郷してくれるならば、今はどこでも良いのではないか」とか、そのために「高齢者にやさしい地域づくりを」という声も多くみられました。

Q24　校区内に不足している機関や施設は何ですか。困っているものがあれば選んでください。（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答率	回答数	回答率	回答数
1. スーパーやコンビニ	608	28.4	341	25.1
2. 病院、医院	391	18.2	307	22.6
3. 公共交通（バス）	423	19.7	279	20.5
4. 信号機や道路標識	145	6.8	81	6.0
5. 喫茶店、食堂	129	6.0	72	5.3
6. 公園	175	8.2	114	8.4
7. マンション、アパート	81	3.8	56	4.1
8. 幼稚園	27	1.3	18	1.3
9. その他	24	1.1	17	1.3
10. 特に困っていない。	141	6.6	74	5.4
計	2144	100	1359	100

■不足している機関や施設について
　ほぼ前回通りの回答率で推移していますが、病院・医院が減り、スーパー・コンビニが増えたことは現状を反映していると考えられます。校区内で買い物ができなくなったことが今回のアンケートに現れています。

Q25　八幡校区内に農産物直売所や加工所があったら利用しますか（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 直売所は時々利用したい。	732	73.0		
2. 自家製の野菜などを直売所に出荷したい。	78	7.8		
3. 加工所を利用し直売所に出荷したい。	35	3.5		
4. 直売所も加工所も八幡には必要ない。	112	11.2		
5. その他。	46	4.6		
計				

Q26　地域の伝統行事についてどのように思われますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 今後も残し積極的に進化させるべきである。	217	21.4	117	19.5
2. 現状のままでよい。	593	59.1	349	58.3
3. 縮小させ、なくしていった方がよい。	159	15.9	95	15.9
4. その他。	46	4.0	38	6.3
計	1015	100	599	100

■伝統行事について
　ほぼ前回通りの回答率で推移しています。14年前と現在では、すでに無くなっている行事もありますが、伝統的な行事が何故行われたのかというルーツ（歴史的要素・経過）を検証し、現代版に置き換え参加者を増やせるよう工夫し、現状を維持していけるよう検討する必要があります。

Q27　今後どのような校区になって欲しいと思いますか。下記の中から3つ以内でお答えください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 校区の魅力を生かした助け合い、ふれあいの住みやすい校区。	494	24.3	245	39.6
2. 自然環境を生かした、農業を中心とした校区。	252	12.4	67	10.8
3. 子どもの安全、防犯・防災の取り組みが充実した校区。	519	25.6	0	0.0
4. 開発計画を進め、企業や工場を誘致する工業を中心とした校区。	184	9.1	78	12.6
5. 公共住宅等を増やし人口が増加する校区。	283	13.9	135	21.8
6. 商業施設の誘致による商業を中心とした校区。	146	7.2	30	4.9
7. 現状のままでいい。	133	6.5	55	8.9
8. その他。	20	1.0	8	1.3
計	2031	100	618	100

■八幡の今後のイメージについて
　今回から新たに設問に加えた「安全・防犯・防災の取り組み」について、4人に1人の方が要望されています。これは、平成24年7月の豪雨災害が影響しているものと考えます。また、「助け合い・ふれあい」が極端に減少しているのは、残念な結果と言えます。

Q28　校区内の道路整備は必要と思いますか。（下記の中から一つだけ選んでください）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 整備が必要。	544	52.4	427	71.8
2. 老朽化や危険性のあるところのみ整備。	362	34.9		
3. 現状のままでよい。	118	11.4	163	27.4
4. その他。	14	1.3	5	0.8
計	1038	100	595	100

■道路整備について
「1・2」を合わせると87．3%の回答率となっています。これは、校区内の道路の現状がいかに悪いかを表しており、行政区を通じた行政（県・市）への強い要望が求められます。

Q29　Q28で「道路の整備が必要」と答えられた方に質問します。特に必要と思われるものを下記の中から選んでください。（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 県道柳瀬筑後線（八幡小学校横の道路）の拡幅工事。	258	18.3	135	13.4
2. 県道船小屋・八女線（平⇒川犬⇒溝口）の川犬から溝口までの拡幅工事	200	14.2	144	14.3
3. 県道唐尾・広川線（川犬⇒上新庄⇒前古賀）の拡幅工事。	131	9.3	95	9.4
4. 市道新庄・稲富線（上新庄⇒西田⇒国武）の拡幅工事。	225	15.9	187	18.6
5. 市道115号線（平⇒立野に抜ける基盤整備事業後の道路）の拡幅工事	50	3.5	60	6.0
6. 新庄5差路の改良工事。	344	24.4	183	18.2
7. 校区を東西に抜ける基盤整備事業後の道路を生かす新たな道路整備。	80	5.7	59	5.9
8. 各行政区内の道路の拡幅工事。	99	7.0	120	11.9
9. その他。	25	1.8	24	2.4
計	1412	100	1007	100

■特に整備が必要な道路（路線）について
　前回と比較すると、県道柳瀬筑後線の拡幅工事が現在も要望としては根強くあります。また、新庄5差路の改良工事が一番多く、これは子どもの安全や事故の危険性を表しており、現在検討中の案件となっているようです。

Q30　校区内に住宅の誘致は必要と思われますか※〇番号の理由も選んでください。（複数回答可）

設問内容	現在		その他	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1．必要である。	768	65.9	427	74.5
①子どもたちを増やしたいから。	447	38.4		
②自分の子どもや孫に近くに住んでもらいたいから。	105	9.0		
③企業誘致には住宅が欠かせないから。	193	16.6		
④その他。	23	2.0		
2．必要ない。	364	31.2	127	22.2
①苦情が出る等、農業との共存・共生が難しいから。	63	5.4		
②町内や隣組の付き合いが難しくなるから。	67	5.8		
③自然環境豊かなのんびりとした地域が好きだから。	149	12.8		
④空き家を活用すれば新たな住宅は必要ないと思うから。	73	6.3		
⑤その他。	12	1.0		
3．その他。	33	2.8	19	3.3
計	2297	197	573	100

■住宅誘致について
　前回と比較すると「住宅誘致は必要ない」と答えた方が増えていますが、これは理由を記載したことが要因であると考えられます。しかし、少子高齢化地域の1つの解決策として住宅の誘致を望んでいる方が多くあり

Q31　Q30で住宅の誘致が「必要である」と答えた方お尋ねします。どのような方法がいいと思われますか。下記の中から1つだけ選んでください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1．市営・県営住宅を誘致する。	275	48.3	199	45.3
2．建売住宅を分譲する。	99	17.4	98	22.3
3．宅地分譲を行う。	180	31.6	125	28.5
4．その他。	15	2.6	17	3.9
計	569	100	439	100

■住宅誘致の方法について
「公営住宅誘致」「宅地分譲」が前回より3%ほど伸びています。

Q32　子どもの育つ環境についてどう思われますか。特に必要と思われるものを下記の中から選んでください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1．通学路の安全対策。	562	32.8	230	22.0
2．行政区内の子どもの遊び場の確保。	276	16.1	203	19.4
3．子ども会などの活動の充実。	86	5.0	81	7.7
4．子どもたちのコミュニケーションの充実。	181	10.6	93	8.9
5．安心して遊べる自然公園の設置。	413	24.1	272	26.0
6．児童福祉センターの充実。	104	6.1	103	9.8
7．現状のままでいい。	76	4.4	56	5.4
8．その他。	14	0.8	8	0.8
計	1712	100	1046	100

■子どもの育つ環境について
　前回と比較して、通学路の安全対策が10%程度伸びています。これは歩道整備や街灯の設置などが求められているのではないかと考えられます。保護者や高齢者による見守り体制の充実とあわせての議論が必要です。

Q33　若者が校区に定着するための対策について、何が必要と思われますか。必要と思われるものを下記の中から選んでください。（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 働く場所の確保。	713	35.0	374	29.0
2. スーパー等、生活に関する利便性の向上。	405	19.9	238	18.5
3. 通勤、通学等交通体制の整備。	227	11.1	155	12.0
4. 若者向きの住宅の確保。	197	9.7	137	10.6
5. 地域風習、出ごと等負担の軽減。	322	15.8	169	13.1
6. 上下水道の整備等住宅環境整備。	115	5.6	109	8.5
7. 現状のままでよい。	49	2.4	30	2.3
8. その他。	12	0.6	7	0.5
□希望する仕事や家族の関係で校区外に住んでも仕方がない。			69	5.4
計	2040	100	1288	100

■若者の居住定着について
　前回よりも増して「働く場所の確保」が伸びています。これは農林業が低迷して30年、専業農家が減少し、近くに安定雇用の場がないことが核家族化や少子化を招いていることを表しています。

Q34　高齢者の生きがい対策についてどのように思われますか。必要と思われるものを下記の中から選んでください。（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 高齢者のための公共交通体制の整備。	469	25.0	266	21.9
2. 保健対策（検診、巡回指導等）や医療体制の強化。	283	15.0	215	17.7
3. 高齢者の知恵と経験を生かした農産加工や直売制度の確立。	191	10.2	118	9.7
4. 高齢者向けの学習（教養や趣味）、レクリエーション活動の充実。	222	11.9	167	13.7
5. 高齢者の交流の場の確保。	279	14.9	112	9.2
6. 高齢者福祉施設や憩いの家等の充実。	220	11.7	191	15.7
7. ボランティア活動の充実。	95	5.1	89	7.3
8. 現状のままでよい。	101	5.4	52	4.3
9. その他。	13	0.7	6	0.5
計	1873	100	1216	100

■高齢者の生きがい対策について
　前回と比較して、「公共交通体制の整備」が増えています。車に乗れなくなったときの不安が大きい事が伺えます。現在市で施行している「乗り合いタクシー」が十分に活用されていない可能性があり、周知を行うことが考えられます。また、「交流の場の確保」については、農産物直売寄り合い広場や多世代交流の場などを検討することが考えられます。

Q35　校区がより住みよい地域になるためには何が必要と思われますか。必要と思われるものを下記の中から選んでください。（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 直接市長と話し合える場を設定してほしい。	132	13.5	182	30.3
2. 校区の各種団体の会合や行事のお知らせを行ってほしい。	158	16.2	52	8.7
3. 校区の事を考える話合いの場をつくってほしい。	172	17.6	187	31.2
4. 校区が住みよくなる自主活動について市の支援を強めて欲しい。	439	45.0	135	22.5
5. その他。	75	7.7	44	7.3
計	976	100	600	100

■住みよい地域になるためには
　前回と比較して、「自主活動への市の支援」が倍増しています。今後は「八女市地域づくり提案事業」をはじめとする自ら考え行動する地域づくり事業について、「世話人任せ、区長任せ、行政任せ」から脱却した地域活動に支援する制度活用を、校区でも検討しなければなりません。

Q36　女性が住みやすい校区にするためには何が必要かと思われますか。必要と思われるものを下記の中から選んでください。（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 男性の家事、介護、育児への協力。	273	20.9	146	17.1
2. 各種行事、会議への参加負担軽減。	215	16.4	155	18.2
3. 家庭内における嫁としての役割軽減。	141	10.8	116	13.6
4. 家事の時間短縮と自分の時間の確保。	221	16.9	140	16.4
5. 男女共生のまちづくりのための社会教育の充実。	150	11.5	124	14.5
6. 校区における女性活動への支援と機会づくり。	136	10.4	73	8.6
7. 現状のままでよい。	142	10.9	86	10.1
8. その他。	30	2.3	13	1.5
計	1308	100	853	100

■女性が住みやすい校区について
　ほぼ前回通りの回答率で推移していますが、家庭における男性の協力体制が求められています。男女が共に担う取組をより進める必要があります。また、「女性活動への支援と機会づくり」が求められており、協議会で議論し、早い時期に体制をつくる必要があります。

Q37　校区内で親子3世代が住み続けるためには、何が必要と思われますか。必要と思われるものを下記の中から選んでください。（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 2世代住宅に改築するための市の支援。	201	10.8	114	9.5
2. 若者の働く場所の確保。	578	31.1	350	29.2
3. 休日の改善及び労働時間の短縮。	75	4.0	81	6.8
4. 地域の風習の見直しや出ごとを少なくする。	240	12.9	154	12.9
5. 校区内にスーパーやコンビニを誘致する。	367	19.8	253	21.1
6. 病院、医院の充実や教育環境を向上させる。	320	17.2	207	17.3
7. 現状のままでいい。	61	3.3	29	2.4
8. その他。	14	0.8	9	0.8
計	1856	100	1197	100

■親子3世代が住み続けるためには
　前回とほぼ同様に回答率は推移しています。この設問で言えることは、やはり近くに生計を立てることができる雇用の場が少ないことが挙げられます。

Q38　校区内に企業誘致は必要と思われますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 必要である。	530	54.1	417	73.2
2. 必要でない。	129	13.2	133	23.3
3. わからない。	314	32.0		
4. その他。	7	0.7	20	3.5
計	980	100	570	100

■企業誘致について
　今回、「わからない」という項目を入れたところ、32%の方が答えています。これは雇用の場は必要ではあるが、とくに校区内にある必要はなく、農業振興や豊かな環境などを考慮した回答であると考えられます。

Q39　Q38で企業誘致が「必要である」と答えられた方にお尋ねします。企業誘致の種別について、下記の中から1つだけ選んでください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 機械生産型企業（工場）。	264	44.1	222	36.5
2. 研究開発型企業。	73	12.2	68	11.2
3. 大型店舗（スーパー等販売店）。	194	32.4	207	34.0
4. レジャー、レクリエーション施設。	55	9.2	104	17.1
5. その他。	12	2.0	7	1.2
計	598	100	608	100

■企業誘致の種別について
　前回と比較して「機械生産型企業（工場）」の誘致が伸びてきます。これは、雇用の人数と生計が立てられる収入を得るには、工場の方が期待できるという事から回答されたものと考えられます。

Q40　校区内外に是非欲しいと思う施設は何ですか。必要と思われるものを下記の中から選んでください。（複数回答可）

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 自然公園、植物園。	250	11.9	186	12.4
2. 野球場やサッカー場等体育施設。	111	5.3	76	5.1
3. 市営住宅などの公共施設。	191	9.1	162	10.8
4. 矢部川を生かしたカヌー場等。	65	3.1	59	3.9
5. スーパー等大型商業施設。	310	14.7	236	15.8
6. 工場等の企業の誘致。	208	9.9	177	11.8
7. 美術館等の文化施設。	33	1.6	39	2.6
8. 青年の家等の研修施設。	22	1.0	26	1.7
9. サイクリング・ジョギングロード。	100	4.8	49	3.3
10. キャンプ場。	27	1.3	29	1.9
11. 農産加工施設や直売所。	186	8.8	93	6.2
12. 体験農場や体験型貸農園。	82	3.9	38	2.5
13. 都市部の八幡アンテナショップ。	34	1.6		
14. 病院・医院等の医療施設。	319	15.2	253	16.9
15. 短大、大学の誘致。	55	2.6	39	2.6
16. 現状のままでよい。	88	4.2	22	1.5
17. その他。	23	1.1	14	0.9
計	2104	100	1498	100

■校区に欲しい施設について
　前回と比較すると、健康志向の高まりとして「サイクリング・ジョギングロード」が増え、直売所や体験農園など農業を生かした施設が求められています。また、「現状のままでいい」と答えた人も増えています。「商業施設」や「病院」等の施設も以前として多く要望されています。

Q41　人権という言葉から、どのようなことを連想しますか。下記の中から3つ以内でお答えください。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 自由。	301	13.8		
2. 平等。	606	27.7		
3. 幸福。	125	5.7		
4. 自立。	82	3.7		
5. 生存。	37	1.7		
6. 共存。	165	7.5		
7. 差別。	397	18.1		
8. 格差。	114	5.2		
9. 他人事。	6	0.3		
10. 建前。	71	3.2		
11. 思いやり。	274	12.5		
12. その他。	10	0.5		
計	2188	100		

■人権という言葉で思う事について。
　人権意識を設問に加えました。ここでは「平等」「差別」「自由」「思いやり」の順に回答されています。

Q42　一番関心を持たれる人権問題とは何ですか。(複数回答可)

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 女性の人権に関する問題。	229	13.0		
2. 子どもの人権に関する問題。	269	15.2		
3. 高齢者の人権に関する問題。	254	14.4		
4. 障がい者の人権に関する問題。	301	17.1		
5. 同和問題。	270	15.3		
6. 外国人の人権に関する問題。	41	2.3		
7. エイズ、ハンセン病など感染症患者の人権に関する問題。	62	3.5		
8. 犯罪被害者等に係る人権に関する問題。	78	4.4		
9. インターネットを悪用した人権侵害の問題。	194	11.0		
10. 性同一性障がいや同性愛者などの性的少数者の人権に関する問題。	39	2.2		
11. その他。	28	1.6		
計	1765	100		

■人権問題の関心について

ここでは、関心度の高い人権問題を設問としました。「障がい者」「同和問題」「こども」「高齢者」「女性」「インターネット悪用」の順で回答されています。

Q43　人権が尊重される地域社会を実現するには、八幡校区はもとより八女市においてどのような取り組みが必要と思われますか。

設問内容	現在		平成11年	
	回答数	回答率	回答数	回答率
1. 学校教育などにおける人権教育の充実。	386	26.9		
2. 社会保障制度(年金など)や医療、福祉制度の充実。	429	29.9		
3. 専門的な相談員の育成、相談場所の充実。	165	11.5		
4. 職場や地域での人権に関する懇談会や学習会の開催。	114	7.9		
5. 講演会、研修会、シンポジウム、啓発イベントや企画展示等の実施。	70	4.9		
6. 人権を守るための法整備。	120	8.4		
7. わからない。	127	8.8		
8. その他。	25	1.7		
計	1436	100		

■人権が尊重される地域の取り組みについて

この設問においても上記Q42同様に、障がい者及び高齢者への人権問題、子ども間のいじめ問題等が考えられます。また、相談する機関や場所などの体制の問題も挙げられます。

アンケートその他要望への回答内容（ハード面：企業・施設・交通等）1	種別
40年前から八幡は変わっていない。病院やスーパー、企業を誘致し人を増やしてほしい。（70代女性）	1
企業誘致を行い、働きの場を確保して市営・県営住宅を、また宅地分譲も行う。（50代男性）	1
空家・木造住宅・田畑等への都市部からの人口、産業の誘致（60代男性）	1
工場を誘致し、道路拡張や充実、人口増や若者の地域定着を要望。（70代以上男性）	1
自然環境を残し、生かし、農業地帯（大規模農業）と開発計画による企業誘致（工業地帯）でうまく併合し、共存できればと思う（雇用の拡大、人口増、経済活動が活発になる）（60代男性）	1
新規企業の誘致と大型商業施設の誘致及び医療施設の増PDを期待します。	1
人として暮らしやすい校区だと思います。ただ、今後の事を考えると、人口が増えない（子供が増えない）不安です。企業の誘致や宅地の分譲で物理的に人を増やした方がいいと思います。（40代女性）	1
働く工場がない。（70代以上女性）	1
魅力ある企業誘致と職場。（30代男性）	1
いろんな産業の新規誘致。大型ショッピング施設の開業（女性）	1
お年寄りの多い校区なので、子どもたちとお年寄りの交流の持てる場（共生の森）のようなものがあればいいと思う。（女性）	1
コンビニ。（10代20代男性）	1
コンビニの誘致、親子三世代には限界、住宅整備で新たな住民を。（40代男性）	1
すべて子どもたちのために整備を行ってほしい。（50代男性）	1
もっと遊べる場をつくってほしい。（10代男性）	1
ライブハウス。（30代男性）	1
既存の住宅整備を増やすべき。（60代男性）	1
共働きできる子どもが住める施設・場所。（50代男性）	1
近くにスーパー・コンビニが欲しい。（交通の不便・車に乗れない・60代女性）	1
近代的に都市化してほしい。（50代男性）	1
結婚して子育てできる施設。（共働き可能な・50代男性）	1
県営や市営住宅など借家やアパートが少ない。（20代女性）	1
娯楽施設。（10代男性）	1
公的墓地。（40代男性）	1
広い公園、スーパーなど。（30代女性）	1
校区内にスーパーやドラッグストアがあれば助かります。（30代女性）	1
高齢施設、商業施設、教育施設、医療施設等があれば遠方からも出向いてきてくれる地域性をもった地区になる事を希望します。（40代女性）	1
子どもが遊べる公園はあるが、昼間でも暗い感じがして遊ばせづらい。また、遊具がさびている。	1
市営住宅に住んでいるが、古いので最悪である。インフラ不足など通路が狭い。（50代男性）	1
市営住宅を近代的なマンションに、、、（50代男性）	1
市営住宅を少しでもいいので欲しい。子どもにとっても環境が良く、遊びやすい、のんびりでいい。あとは住宅整備。（20代女性）	1
社会的なことを学ぶ機会のためにもコンビニ等店ができればと思う。（40代女性）	1
住宅。（20代男性）	1
商店があればよいと思う。（30代女性）	1
小型商業施設が必要で大型は必要ない。（50代男性）	1
図書館（30代女性）	1
図書館・美術館（60代男性）	1
他所から来客のある魅力ある商品設備が欲しい。（50代男性）	1
大型店ができるより、個人商店が充実しているまちのほうが魅力があると思う。（40代女性）	1
地域の連携もよく取れていて住みやすいが、近くにスーパーを。（50代女性）	1
鳥栖のアウトレットモール規模の大型アウトレットモール等を誘致し、若者が買物できるようにしてほしい。（20代女性）	1
店が少ない。コンビニもない。（50代女性）	1
八幡校区に引っ越したいが住宅がないので困っている。（女性）	1
八幡校区の小さな図書館。勉強できるスペース、駄菓子屋。（30代女性）	1
美術館・図書館・博物館、大きな書店、劇場、散歩できるような公園などがない。（60代男性）	1
病院、食料品の店がない。（10代女性）	1
民間アパート1戸建てなど（40代女性）	1
校区内の主要道路にバスを通してほしい。（女性）	1
現在は車に乗れるけど将来のために公共交通。（60代女性）	1
公共交通機関（駅まで、市内）、大手コンビニより日用品を扱う店。（30代男性）	1
特に交通の便が悪い（70代男性）	1
買い物やコンビニに困るのでは・・と思う。（30代女性）	1
買い物、医療、交通の便が悪い。（70歳以上女性）	1
八女市内で最も不便。	1

アンケートその他要望への回答内容（ハード面：企業・施設・交通等）1	種別
病院、バス、交通の便が良くない。（70代以上女性）	1
全く生活するのに必要な店・医などない。（40代女性）	1
校区内に企業を誘致しても校区の方が就職されるとは限らない。（40代女性）	1
誘致までしなくてもケースBYケースでよい。（50代女性）	1
スーパーやレジャー施設はいらないと思う。そういう場所へ行く道のりが楽しいのであって、近所にできてもつまらない。茶畑好きだし、現状で満足しています。	1
とにかく理想論ではなく、足元から考えるべき。（70歳以上男性）	1
1つ2つ施設が増えたところで、今の若い人たちが心動かされるとは思いません。（60代女性）	1
若い人に住んでいただき、校区内を活性化したい。（70代以上女性）	1
住宅を誘致したところで、どれだけの人が来るのでしょうか？？（40代女性）	1
八幡の魅力はスーパーなどの人が集まるような店がなく、信号も少ない所。つまり自然の多い校区だということです。無理に施設を増やすことはないと思います。	1
不便な面は買い物や金融関係など移動手段がない方はそうだろうと思う。（40代女性）	1
よらん野のような店。（60代女性）	1
安全で安くて新鮮だったら利用する。（50代男性）	1
加工所、米・野菜の直売所を出してほしい。（60代女性）	1
各スーパーに直売があるので校区にこだわらない。（40代男性）	1
最近は道の駅などの直売所が多くなっているため、同じような直売所なら、他の所を利用し、必要ないと思う。（40代女性）	1
値段による。（20代男性）	1
土日、祝日のみ開店の、気軽に立ち寄れる直売所を試行的に設置したらどうだろうか。（40代男性）	1
コミュニティセンター。（60代男性）	1
雇用の確保、通勤利便の向上。（40代男性）	1
公共交通機関にかなり不便さを感じます。車が運転できないと何を利用するも難しい。駅やバス停が遠すぎる（40代女性）	1

アンケートその他要望への回答内容ハード面（道路・下水道・街灯など）	種別
道路整備（女性）	2
道路整備とコンビニ（女性）	2
4年以上前から依頼しているが未整備。（60代男性）	2
50年住んでいますが道路幅が非常に狭い所が多いと思います。（50代男性）	2
道幅が広がるとトラック等が増えるので歩道やサイクリングロードを増やしてほしいです。（20代女性）	2
すべての道を幅広くしてほしい。（50代男性）	2
すべて検討急務。あまりに遅れている。下新庄西の筑後市との境界。（70歳以上男性）	2
ダンプや大型車の通行が非常に多い。（40代男性）	2
安全で散歩できる道をつくってほしい。（50代男性）	2
拡幅をしてほしい（60代女性）	2
学校登下校、大人でも危険です。（70歳以上女性）①人が選ぶものであり、誘致など必要かなぁ？（60代女性）	2
企業誘致ができたら道路拡幅も必要かも（70歳以上女性）	2
犬馬場行政区内の道路の拡幅及び整備が必要。（男性）	2
県道、筑後柳瀬、緒玉のカーブ改良（70代男性）	2
県道船小屋、八女線平⇒川犬⇒下川犬の拡幅（男性）	2
県道船小屋八女線で、川犬付近は道が狭く、大型ダンプ通行が多いので危険。矢部川の矢原・宮島の堤防補強工事（70歳以上男性）	2
子どもたちが安全に通学できるよう、道路改善や高齢者の移動手段の充実を求めます。（40代女性）	2
施設「いずんじま」前の道路・・・八幡小まで（70歳以上男性）	2
出事減らす。通学路の歩道をつくってほしい。	2
新庄5差路を拡張してほしい。（40代女性）	2
生活道路は常に整備してほしい。（60代男性）	2
生活道路は必要だが、大型トラックやダンプカーが往来する道路は困る。（50代男性）	2
川犬から下川犬への東西の道路が狭く車が通ると子どもの通学が非常に危険です。拡張を望むとともに筑後市との道路をつなげて欲しい。（子どもたちがよけて通学しています。歩行者の安全地帯を早急につくってほしい。）	2
朝夕は車が多くて人が通りにくい。（70歳以上女性）	2
道路、特に県道拡張、209・3号線、筑後船小屋へのアクセス道路（70歳男性）	2
道路が良くなるとスピードを出す車が増える。取り締まりを積極的に行ってほしい。（50代男性）	2
道路が狭いため危険（70代男性）	2
道路が狭くて悪い。通学路もあり、高齢者の自転車も多いので本当に危険。（20代女性）	2
道路拡張、歩道の整備。（60代女性）	2
白線を引いてほしい。街灯を付けて欲しい。（40代女性）	2
八女船小屋線を朝・昼大きなダンプカーが結構なスピードで何台も通ります。とても怖い、危ないです。狭い所が特に。本当にあの線しか通り道が無いのでしょうか。（女性）	2
八幡小⇒泉島⇒宮島へ行く道路の拡幅工事。（40代男性）	2
比較的よいが、ダンプなどの往来の悪さ割に安全性が欠ける！（40代女性）	2
不要な箱物の建築より、地域振興のための道路整備、環境整備をすべし。（男性）	2
平からの緒玉の道。曲がっているし、大型トラックの往来で危ない。（50代女性）	2
ここが住みよいと思う人たちが住んでいればいいと思う。働き場やスーパーや住宅などなど、八幡に必要だろうか。自然と農業だけでいいのではないか。でも道路の舗装面はいくつか改善してほしい。（40代男性）	2
どちらとも言えない。現時点では必要ないと思うが、20年先以上を考えてたときに例えば農業でいえば、どれほどの人が今の農業を引き継ぎできるのか不安。（30代女性）	2
溝口からみやまへの橋梁が整備されてから交通量が増え、危険を感じる。（40代男性）	2
整備したところで、何に有利に働くか。八幡に何が必要かが見えない。（40代女性）	2
道路の拡幅には反対です。（40代男性）	2
道路はこれ以上いらない。（男性）	2
道路よりも川、生物いなくなり過ぎ。コンクリートややめるべき。（30代男性）	2
拡幅工事もさることながら、路面の舗装整備をぜひお願いしたい。危ないから。（女性）	2
若者の就業確保に向けた環境整備、福岡市等の通勤圏としての道路、環境整備。（女性）	2
小さめの公道の古くなったアスファルト舗装をやり直してほしい。（女性）	2
竹林改善、環境や道路整備、偏った取組の見直し、若者就業対策。（70代女性）	2
歩行者や自転車の安全のための道路拡幅（40代女性）	2
歩道、自転車用道路、高齢者、幼児を守ってほしい。（女性）	2
下水道（浄化）設備、並びに企業誘致が急務と思う。（70代以上男性）	2
下水道の整備を、排水路がない。（男性）	2
街灯を増やしてほしい。（10代女性、30～50代男性）	2
街灯路の増加（夜になると暗い）田んぼ、畑のいらないところを分譲地にする。（20代男性）	2
夜街灯が少ない。（50代女性）	2

アンケートその他要望への回答内容（ソフト面：子育て、教育等）	種別
時間外保育、学童保育（男性）	3
育児支援がしっかりしている。（30代女性）	3
家庭と地域と学校が一体となり、子どもたちが立派に成長されるよう温かく見守っていく努力が必要だと思います。我々一人ひとりが「人は誰かの為に誰かとともに生きる存在だから」という事を忘れずに参りたいと思います。（60代男性）	3
子どもたちにとっては自然があり住みやすいと思うが、成人、老人にとっては便利がわるいかも。（30代女性）	3
子どもたちが育つ環境としては大人の教えが悪いと思う。（60代男性）	3
自分が子どものころと比べると、教育面でも環境が変わっているし、全く不安が無いとも言い切れない。（時代の変化とは言え、昔は良かった。）（30代男性）	3

アンケートその他要望への回答内容（ソフト面：高齢者等）	種別
いつまでこの生活ができるかわからない。車にいつまで乗れるか。自分たちの力でどれくらい生きられるか教えて欲しい。	4
近くにお店が欲しいです。今はまだ。車の運転が大丈夫ですが、いつまでできるかが不安です。買い物もいけなくなります。子どもも近くにおりません。便利な所に引っ越すしかないねと主人と話しております。	4
交通の便が良くなればこのまま住み続けたいが、老後もし一人住まいで交通手段がない生活になった時は、利便性の良い所に住むのがいいのでは、、、という不安がある。（50代女性）	4
高齢者でも元気な人は働きたいと思うが仕事が無い。（50代男性）	4
高齢者の為の公共交通整備をお願いします。（50代男性）	4
西公民館、隣保館、集会所及び各町内の公民館の充実。またコミュニティと併せ、高齢者の生きがい対策を図る。（60代男性）	4
町内においても、核家族が進む中、現住居では老後の医療・買い物等への交通の不便を感じている。（女性）	4
老後の町内世話役が心の負担に。（70代男性）	4

アンケートその他要望への回答内容（ソフト面：人権）	種別
偏った人権の取り組みはやめるべき。周囲の人たちに特別な見方をつくりだすことに繋がる。全員を対象にした人権啓発の取り組みを。（50代男性）	5
まだまだ、女性軽視が根強い。正しい発言や行動も軽視される。（50代女性）	5
マナーの徹底化、可視化を増やす。（40代男性）	5
強制・重たい。（40代女性）	5
憲法9条・原発・不平等（30代男性）	5
公平・仁愛	5
口先だけでない真剣なる取組み（60代男性）	5
国際的交流（60代女性）	5
今は共働きの家庭も多く、休日まで出ごとや行事に出るのは女性の負担が大きい（40代女性）	5
拉致問題には無関心ですね。（50代女性）	5
寝た子を起こすような気がします。（10代女性）	5
人を愛することや思いやりなど、当たり前のこと。人権という言葉ばかりが先走りしている気がする。（50代女性）	5
人間らしく生きる権利。	5
人権とは連想するものではない。（70代以上女性）	5
生きる権利。（40代女性）	5
男尊女卑が強い。（70代女性）	5
犯罪者と被害者。（50代男性）	5
封建的な女性差別の撤廃（30代女性）①家族の問題、何かしたからといって変わるとは思えない。（60代女性）	5
きちんと勉強を積んだ方による、人権に関することを正しく理解できるように育成できるような場所が必要だと感じます。	5
すべての人間が人間として尊重される事の人権。（40代男性）	5
ポーズやスタイルだけでやっても駄目だと思う。（40代女性）	5
1つだけの人権にとらわれない幅広い人権の考えかた、尊重の仕方を大人も子供もきちんと理解する（できる）教育を充実させる。	5
家族、隣の人、近所と回りの人への優しさから始めるべき。（60代女性）	5
会合や寄りなどで男性の発言の機会が多いのに、女性は後回しで意見が通らない。出席しても「女がきたのか」と言われる。時代錯誤な男性がおられ、その意識改革は大切だと思われる。（40代女性）	5
思いやりの気持ちを常に持つ事。（60代男性）	5
人を差別することが一番人として恥ずかしいことである事を強調すべき。（50代男性）	5
正しく知る・他人事と思わない・トップがちゃんと知るべき。（40代女性）	5
大人のいじめをなくさないで、子どものいじめは解決できない。（50代男性）	5
同和地区との交流。（50代男性）	5
同和問題に本気で取り組まないと八幡に未来はない。（50代男性）	5

アンケートその他要望への回答内容（地域振興施策など）	種別
インターチェンジや新幹線に視点を当て、観光人口を増やす。（60代男性）	6
お金をかけて何かをしてもらおうという発想に疑問を感じる。施設についても、まず公民館の活用策を（60代女性）	6
お世話をする人は大変だけど、行事の中で生まれる連帯感がある。（70代以上女性）	6
治安は良いと思うが、災害に弱く、利便性が悪い。（40代男性）	6
とにかく土地を提供する。民間の自由に任せる。税金を使うのではなく、納税できる環境を整えるべき。（50代男性）	6
近くに仕事が無いから跡取りがいなくなり、独居老人や空き家増えていくだろう。これは、その空き家の持ち主や親族だけの問題ではなく、地域の問題として対策していくべきだと考える。	6
空き家、遊休地の貸し出しによる人口流入。（50代男性）	6
空き家対策が必要。（50代男性）	6
警察の巡回強化などにより、安心して住める校区にしてほしい。（空き家や下着泥棒や老人を狙った勧誘・訪問販売が増えているため。）（女性）	6
現在「何もない」（農業以外）地区だという事は、「何もでき、発展させられる」大きな可能性を秘めた地区であるという事です。市民すべてが納得する事業は不可能ですが新たに手を加える以上、単体ではなく、総合的、複合的視野に立った地域振興策・事業であってほしいと切に願います。（40代男性）	6
個人商店への支援。（40代女性）	6
若者定住、働く場所の確保。（60代女性）	6
住人を増やすことで活性化を図る。（50代男性）	6
小学校の出ごとが多い・少子化で毎年役員・加えて地域の出ごとで働いている若者は住みづらいのでは。（50代女性）	6
食材の宅配（50代男性）	6
まずは八幡校区を知ってもらうことが大事（40代女性）	6
地域の各種団体、よかとこ会やめだか塾など集約してほしい。（60代男性）	6
地域振興はそこに住む人次第。豊かな人間性は刷り込まれた先入観で人を見ないし、人の生き方を否定したりしない。（60代男性）	6
地域振興を考える前に人口がなぜ増加しないのか、成人が地元を離れていくのかを考慮して実現可能な範囲で考え、人と予算が必要。（30代女性）	6
農業・企業・工業などが共存できる校区（60代男性）	6
麦と稲の時期に小型ヘリで農薬散布していますが、いつどこで散布するのかを詳しく知らせて欲しいです。うちは田んぼが近いので（洗濯物や窓開けを控えたいので）	6
畑のない人に家庭農園を提供する仕組みを作ればいい。そこから生きがいや交流が生まれると思う。（50代男性）	6
八幡を花にあふれる地域にしたらどうだろうか。四季のいろんな花や植物、珍しい木など人の心を癒します。（50代男性）	6
八幡ほど変わらない地域はない。	6
変わろうとしない事、このまま過疎から抜け出せないと思う。実際子どもたちは年々減少している。人を呼び込む必要が大きいと思う。（女性）	6
矢部側を中心とした自然環境づくりと観光客集客を考えた体制と実践。また、八女伝統工芸品・農産物の地域を含む（男性）	6
遊休農地を利用して（30代男性）	6
インターチェンジや新幹線に視点をあて、観光人口を増やす。（60代男性）	6
緑豊かで。空気の澄んだ農業を主体とした住居地域であってほしい。また、観光振興に当たっては「子どもと高齢」の視点に立った施策をお願いします。	6

アンケートその他要望への回答内容（環境）	種別
居住地に隣接した雑草地や竹林などの管理を法律(指導・命令など)できちんとさせて欲しい。	7
これ以上建物などを作らない方がいいと思う。川にカモを放すなど、心がなごむことをした方がいい。（40代女性）	7
ダイオキシン等が出るものを、郊外で無頓着に燃やす人が多数いる。（50代男性）	7
ポイ捨てをさせない環境づくり。（30代男性）	7
家族が安心して住める環境がある事が優先。（30代男性）	7
環境は良い方だと思うが、古い考えに縛り付けているように思う。（40代女性）	7
今の自然風景を壊さないような町づくりをしてほしいです。（20代女性）	7
八幡に土地を持っていても、家を建てられない状況(農地問題で)住みたいと思っていても役場で無理とあしらわれた時は正直離れたいと思った。（30代男性）*地域に関心のある外部の人に来てほしい。（60代男性）	7

アンケートその他要望への回答内容（伝統文化・行事）	種別
基本的には残すが、時代に呼応した伝統行事にするために進化させるべきものと、簡素化するもの、あるいはなくすものに整理する。（60代男性）	8
どんな伝統行事があるの？（男性）（女性）	8
伝統行事が何をされているのかわからない。（30代男性）（40代女性）	8
伝統行事はできれば参加したくない。（30代女性）	8
伝統行事を知らない。（50代男性）	8
八幡校区の伝統行事を知らない。（60代女性）	8
伝統行事は負担にならないように省略していき、できる限り残していく。（40代女性）	8
残していくべきものとは思うが、社会性の変化や各個人の就業状況、価値観の変化から無くなりつつあるのが現状。なくなると気が楽になるのが反面、寂しいような気もします。（40代女性）	8
伝統を続けていく人材が老人ばかりになり、あり方を考えていかなければならない。（60代女性）	8
伝統行事はできれば出たくないが、このような付き合いが、八幡のような不便な地域には欠かせないと感じる年になったので、必要性は認め参加している。（40代女性）	8

アンケートその他要望への回答内容（同居・3世代など）	種別
同居では人口増えない。子どもが集まらないと活気減少、学校統廃合。（40代女性）	9
1～7いずれも必要。3世代住み続けさせる考え方は？（70歳以上女性）	9
3世代以上同居は、家庭、家庭内の問題。（60代女性）	9
子どもには今の八女市内には住んでほしくない。（60代男性）	9
経済面、就業の面から生活していくことを考えれば現状として同居、市内居住は望めない。住んでほしいという希望はもちろんある。（40代女性）	9
結婚すれば出ると思うので。（30代女性）	9
いまのままでは子どもに住んで欲しくない。（50代男性）	9
仕事があれば校区内に住んで欲しい。（60代男性）	9
子ども・孫にはそれぞれの人生がある。身近に住む考えを強いることはない。（70歳以上女性）	9
子どもの希望が親の希望。子どもの望むところに住んでほしい。（30代男性）	9
本人の意思にゆだねる。（30代男性）①娯楽施設など、人の流れが必要。（40代女性）	9
3世代、若者が住む際、子どもの教育は重要なポイント。他の地区にないことを行い、八幡の魅力をアピールしたらよいのでは・・・。例えば、小学校の校庭は広いのでテニスコートを作り、上級生の将来に取り入れる。農業が盛んなので、大根を植え⇒収穫⇒漬物作り等を地区のお年寄りと一緒に3回講座という形で繋がりのある学習できる体験をさせる。上陽ふるさとわらべ館のプログラムを参考に、親子でできるプログラムを年に数回行うことにより、気軽に親子のコミュニケーションがとれる。子どもも色々な体験ができる。（女性）	9
各世代での自立と助けあい。（60代男性）	9
現在3世代で暮らしていてとても満足している。（70歳以上女性）	9
子どもがある家庭が増えればいいと思う。ただ、人口を増やすのではなく、子どもがある家族が増えることで、それが防犯にも繋がっていくと思う。せっかく自然あふれた子育てには良い環境だと思うので、それを生かして子どもたちが住みやすい地域にしてほしい。	9
子どもの少ないまちに発展・振興は無いと思います。（男性）	9
将来的に同居か近くに住んでほしい。（50代女性）	9

アンケートその他要望への回答内容（コミュニティ）	種別
あまり八幡の良い話を聞かない。八幡外住民から(男性)	10
ふれあいが少ないと思います。小学校の運動会、昔みたいに大人が参加したらと思う。（70代女性）	10
環境・施設等の他に、先ずは人材の育成（コミュニケーション）能力の向上を図る。（70代以上女性）	10
校区の事を考える場で興味関心のある方に集まってほしい。出席される顔ぶれがいつも一緒だと新しい意見も出ない。（40代女性）	10
校区選出市議との連携はやっているのか。何か一つしっかりした目標を校区民が持つような方向性、そして講演・協議・実動への総力化。いうばかりではNO。前向きと実動を・・・。（男性）	10
校区内のコミュニケーション。（50代男性）	10
子どものころに参加していた子ども会は楽しかった。おこもり、祭りなど。（20代女性）	10
若者が我が故郷、八幡校区と思えるような連帯感のある地域づくりができたらと思います。自然や、矢部川流域をもっと活用し、魅力あるまちづくりができたら良いですね。（女性）	10
若者が集える場所の確保。	10
若者にレクリエーションの場が無い。（10代女性）	10
若者を引き付ける取組み。（住い・イベント・福祉・40代女性）	10
全体的にみると、自然環境は良いが生活しにくい校区。まずは挨拶から。（70代男性）	10
八幡校区のコミュニティが将来にわたって維持できる程度の人口確保策を実施して頂きたい。（40代男性）	10
教育・家庭・その他、日常生活の中で培われることが有意義であると思う。（70代以上女性）	10
近所の人から大変良くしていただき、助けたいただき、この年でも生活ができています。（70歳以上女性）	10
行政に頼らず一人一人の自助努力の工夫。（50代男性）	10
行政はタッチせず、地域の共同体に任せればよい。（50代男性）	10
住みよい地域だから現状のままでよい。（40代女性）	10
できるだけ今の自然環境を変えずにそれを生かて欲しい。育児中のお母さんの集える場を開設したり、買い物へ行けない方等へのサポート、独居老人、高齢者だけの家庭の見守り体制など施設を増やしたりして、物的環境・住環境を変えるのではなく、人情の深さを小さな子から高齢者の方まで生かしていけるようなつながりのある地域づくりをしてほしい。（40代女性）	10
隣組の付き合いが良い。（70歳以上男性）	10
同窓生が一堂に集まれるような組織あるはコミュニティセンターがあったら校区の人が集まりやすい。各段階の世代が当時の記録を共同してワークショップを作成したら、今後のコミュニティのイメージを作れると思います。（60代男性）	10

アンケートその他要望への回答内容(行政区など)	種別
各町内の合併を望みます。（50代男性）	11
各町内会費、〇〇行政区は12,000円ですが、とても負担に感じている人がいるのではないか。正会員と準会員にして、準会員は半額にする。	11
協議会、区長会で良い校区を作ってください。（30代女性）	11
行政区長さんや各種団体などの出ごとを増やさない事が大事だと思う。（70代女性）	11
今の人たちは町内に住んであっても、隣組に入られません。（70代女性）	11
他の校区に比べ、八幡は行政区が多すぎるのではないか。（70歳以上男性）	11
町内の出ごとで出不足金が安い。2,000円にするべき。（50代男性）	11
公民館を週に一回程度診療所として開設。（70代男性）	11
出ごとが多すぎる。（20代男性）	11
人数が増えるのは賛成だが、中には町内の必要な出ごとに無関心な人が増え、人間関係が希薄になるのは困るし、寂しい。（50代女性）	11

アンケートその他要望への回答内容（その他の意見・要望）	種別
古すぎる考えを捨てないと八幡に進歩はない。	12
福市のもと隈本家屋敷が多目的広場として整備されましたが、白壁の長い塀は立派で趣があり風情は思い出に残るものです。何らかの方法で維持補修ができないものかと皆様のご理解と知恵をお借り願い提起させて頂きます。（男性）	12
（古い考えを少しは新しい考えにしないと）八幡ほど進化のない地域は他にない。（女性）	12
アパートなので、夜遅くまで他の部屋がうるさいのはいや。（40代女性）	12
その他、すべて不足しているので、資金を投入し変えてほしい。（50代男性）	12
道の駅などを公金で民業に圧迫しないで欲しい。（50代男性）	12
もっと外の校区にアピール（イメージUP）すべき。	12
やる気のない人間はやらない理由を並べたてる。やる気のある人間はやりぬく方法を考える。（60代男性）	12
計画の策定にあたっては、計画の具現化を図るために協議会の構成団体での掘り下げた議論が必要ではないでしょうか。（今後の取り組みとして）（50代男性）	12
現状で十分です。（50代男性）	12
古いしきたりの強制。今は職場ではなくなっているが、地元では強制され苦しい。（40代女性）	12
交通事故のない地域にしてほしい。（50代男性）	12
校区の人の考え方が保守的。自然環境は良いのですが時代に沿った考え方をしてほしい。（50代女性）	12
今は親の介護で参加できないが、本当は色々と参加したい。	12
市長のリーダーシップ。（60代男性）	12
個人の流れや個人が決める事なので、行政の押し付けは良くない。	12
少しずつでいいので変革していってほしい。そして都市化を進めて欲しい。（男性）	12
少子化に歯止めをかけたいが、治安悪化が不安でどちらとも言えない。（30代男性）	12
少々思う事があっても、あまりに何もないので希望が持てない。（40代女性）	12
人に頼るものでなく、自分がどう生きるか！（60代女性）	12
人の個性や生き方を認めず、利害が先行しているようだ。（60代男性）	12
人間性に辟易しているが、真に認めあう、親や先祖を敬いすぐれた先達者を無下にしない生き方を構築したい。	12
人生の目的を持っていない若者が多いと感じる。（60代男性）	12
生まれたところで生き、死ねば、それだけで幸せだと思う。（50代男性）	12
農地から宅地への変更ができるような、農地法を変える。（男性）	12
箱物はいいから空き家を何とかして欲しい。（50代男性）	12
八女の中でも一番古い考えの地域で変われるの？（女性）	12
八幡校区の日頃の取り組みをもっと他地区に発信してほしい。（男性）	12
八幡校区の発展のため尽力されている方々に感謝しております。（女性）	12
不便な校区ですが、近くに病院やスーパーもあり、逆に静かな地区だから住みやすいです。いろいろなものを持ち込んでうるさくなるのはいやです。（40代女性）	12

【策定委員会考察】

いろいろな意見要望を出して頂きました。実施主体を大きく分類すると、①行政に依頼すること、②行政と市民と協働して実現可能なこと、③民間・法人で実施可能なこと、④市民・団体及び民間・法人が協力して実現可能なこと。⑤市民・・・という分け方になると考えます。
今回の地域振興計画は②④⑤を対象としているため、①③については、行政区とまちづくり協議会とで議論し、進めることが妥当であると考えます。

アンケートの要望事項について（事務局考察）

１　校区内の企業誘致について

この設問については、「必要」と回答した方が５４％で過半数を超えています。が、前回よりも少なくなっています。「必要ない」が１３％「わからない・その他」が３３％となっています。また、種別としては工場が多く、その次にスーパー等販売店になっています。

この施策には、雇用と定住化への期待、農業振興と環境保全等の諸課題があり、ジレンマが生じていることも事実です。

八女市の企業誘致活動においては、今福工業団地（岡山）の予定地が一定埋まり、現在、用地の取得を検討されているようです。

２　校区内の企業誘致（建設）について

ここでは、「必要」と回答した方が６６％、「必要ない」が３１％、「その他」が３％と成っています。

必要と答えた方の中でも「子どもたちを増やしたいから」を理由に挙げた方が３８％を占めており、また、市営・県営住宅を望んである方もありますが、アパートのような形態では一時的に子どもたちが増えますが、長期的にみると限界があるように思えます。

民間のアパートは徐々に校区内に増えつつあり、造成前の段階からその行政区との協議を行いつつ設置していく方が地域コミュニティを作っていく上で適当と考えます。

都市からの定住施策を求めるとすれば、校区内に一定の住居ゾーンを設定し、進めていくことが妥当であり、また、空き家の活用も有効な手段です。

３　公共交通体制について

八幡校区では２０数年前に路線バスが廃止されました。その後、八女市の福祉バスが運行されていましたが、現在は予約型乗り合いタクシーが運行されています。

この乗り合いタクシーの利用状況（２４年度集計）を見てみると、７０代８０代の方が全体の８１％利用されており、その中で女性利用が８４％となっています。

八幡校区の登録者は、平成２５年３月末で３４６人（１７６世帯）となっており、平成２４年度の利用者は９８名でした。

校区別の人口割りで比較すると登録者は多いですが、利用者数は八女エリア（旧八女市・光友・北山）で最も少ない状況となっています。

高齢者や運転ができない方が、バス停留所や病院、買い物等に出かけられる際に利用する仕組みとなっており、より活用されるように周知を徹底する必要があります。

しかし、運行する範囲が決まっているため、ＪＲまでを希望される方もおられるようです。

協議会においては、外出支援ボランティア活動等を制度化できるかどうかを今後研究しながら、より広範囲な予約型乗り合いタクシー運行の要望が高いとあれば、行政区を通じた市への働きかけが必要です。

４　都市基盤の整備（道路・街灯・汚水処理）について

八幡には３本の県道（船小屋・八女線）（唐尾・広川）（柳瀬・筑後線）があり、比較的良好ですが、大型トラックが多く、歩道の整備を望まれる声もあります。

市道については、各町内の古くなった舗装面はもとより、新庄・稲富線や国武から立野へ抜ける市道等、舗装面を改修して欲しいという声が多くあります。

また、校区内の街灯の設置箇所数が少ないという声もあり、子どもたちの安全や防犯の意味からも対応すべき課題と考えます。

いずれにおいても、防犯・安全委員会において必要箇所を点検し、行政区長会を通じた行政への働きかけが不可欠です。

生活排水処理として、下水道の整備も要望に挙げられていますが、八幡校区は八女市の下水道事業計画区域ではないため、合併処理浄化槽の設置をお薦めします。

５　地域振興策について

交通体制という意味では八幡は筑後市に隣接しており、ＪＲ羽犬塚駅や筑後船小屋駅に近く、また八女インターチェンジもあります。このメリットをどう考え、どう生かすかが重要な視点です。

また、お隣の筑後市には、平成２８年度に福岡ソフトバンクホークスがファーム（２、３軍の新球場や雨天練習場・寮等）の本拠地を筑後船小屋駅周辺に建設するなど、観光人口の増大波及効果に対する期待感もあります。

八幡の基幹産業である農業産物や農地で何ができるのか、空き家や耕作放棄地活用が制度化できるのか、グリーンツーリズムを制度化し観光資源とする事ができるのか、今後調査研究することも地域振興の一歩と言えます。

また、体験農園・貸農園や花にあふれる地域づくりについては、今後部会を設置するなど具体的な議論が必要です。

さらに、働く場所の確保については、「若者が校区に定着するための対策」、「親子３世代が住めるには」の２つの設問において、両方とも３割以上の方が回答されています。

企業・住宅誘致や公共交通体制にも関連しますが、福岡都市圏までは通勤圏内であることは事実であり、今後の定住促進に向けた魅力ある地域づくりへの議論が重要と考えます。

アンケートの各行政区配分表

					16歳以上		20歳以上		30歳以上		40歳以上		50歳以上		60歳以上		70歳以上		計		合計	アンケ用紙数	
	行政区	世帯数	封筒数		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		世帯のみ	世帯＋年齢別
1	下川犬	45	45	＋	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	18	18	36	9	81
2	川犬	62	62	＋	2	2	4	5	4	5	4	5	4	4	3	3	3	3	24	27	51	11	113
3	泉島	30	30	＋	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12	12	24	6	54
4	宮島	30	30	＋	0	0	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	10	10	20	10	50
5	犬馬場	26	26	＋	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	9	9	18	8	44
6	平	78	78	＋	2	2	6	6	5	6	6	5	5	5	3	4	3	3	30	31	61	17	139
7	上新庄	135	135	＋	2	2	8	8	8	8	8	8	7	7	6	6	5	5	44	44	88	47	223
8	下新庄	43	43	＋	2	2	3	3	3	3	3	4	3	3	2	2	2	2	18	19	37	6	80
9	西田	78	78	＋	2	2	6	6	6	6	6	5	4	4	3	3	3	3	30	29	59	19	137
10	福市	33	33	＋	2	2	2	3	3	2	2	3	2	3	1	1	1	1	13	15	28	5	61
11	今山	31	31	＋	0	0	0	0	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	11	11	22	9	53
12	南国武	57	57	＋	2	2	5	6	4	4	4	4	3	3	2	2	2	2	22	23	45	12	102
13	北国武	73	73	＋	2	2	5	5	5	6	6	5	4	4	3	3	2	2	27	27	54	19	127
	計	721	721	＋	20	20	45	48	50	52	50	50	42	43	32	33	29	29	268	275	543	178	1264

※上記の配分は、あくまでも参考配分表です。各行政区において、年齢・性別がバランスよく配布されますようご協力をお願いします。

※配布については、各行政区内の年齢別世帯状況が分かる方（隣組長等）の協力をお願いします。

八幡校区地域振興計画策定の取り組み経過

平成24年10月2日～平成26年3月末

月日	会議など名称	対象者	人数	場所
平成24年10月2日	第2回まちづくり協議会役員会	協議会役員	26	西公民館
10月16日	協議会4役会議	会長、副会長、書記	6	西公民館
12月20日	第1回策定委員会	策定委員全員	35	西公民館
平成25年1月12日	書記会議	協議会書記	11	上新庄公民館
1月28日	第2回策定委員会	策定委員全員	31	西公民館
2月10日	コーディネーターとの協議	書記2名、コーディネーター	3	福岡市内
2月23日	第1回アンケート調査委員会	アンケート調査委員	6	西公民館
2月23日	第1回地域実態調査委員会	地域実態調査委員	6	西公民館
2月25日	行政区長への説明会	会長、副会長、書記	15	西公民館
3月1日	第3回策定委員会	策定委員全員	36	西公民館
3月25日	第2回アンケート調査委員会	アンケート調査委員	7	西公民館
3月25日	第2回地域実態調査委員会	地域実態調査委員	7	西公民館
4月23日	第4回策定委員会	策定委員全員	36	西公民館
5月7日	第3回アンケート調査委員会 （行政区長会に持参）	調査委員	8	西公民館
5月7日	アンケート調査の開始 （行政区長会に持参）	行政区長	15	西公民館
6月14日	アンケートの回収	行政区長	13	
6月18日	まちづくり協議会総会	まち協役員、代議員	47	西公民館
	全体研修会	まち協役員、策定委員等		
7月30日	アンケート集約作業	策定委員	21	西公民館
8月10日	第4回アンケート調査委員会 地域実態調査委員会	調査委員	7	南国武公民館
8月17日	アンケート集約作業	策定委員	12	西公民館
8月28日	アンケート集約作業	策定委員	11	西公民館
8月29日	アンケート集約作業	策定委員	5	西公民館
9月5日	アンケート集約作業	策定委員	5	西公民館
9月6日	第5回アンケート調査委員会 地域実態調査委員会	調査委員	6	西公民館
9月10日	コーディネーターとの協議	書記2名、コーディネーター	3	久留米市
9月17日	第1回ワークショップ	ワークショップ委員	44	木鶏書院
10月1日	ワークショップ集約作業	書記	3	木鶏書院
10月15日	第2回ワークショップ	ワークショップ委員	43	八幡小体育館
10月30日	ワークショップ集約作業	書記	3	西公民館
12月3日	第3回ワークショップ	ワークショップ委員	41	西公民館
平成26年1月26日	コーディネーターとの協議	書記2名、コーディネーター	3	木鶏書院
1月29日	第6回アンケート調査委員会 地域実態調査委員会	調査委員	8	木鶏書院
2月10日	第5回策定委員会 アンケート結果及びワーク ショップの集約報告会	策定委員全員	36	木鶏書院
2月17日	第7回アンケート調査委員会 地域実態調査委員会	調査委員	7	木鶏書院
2月24日	策定委員会主催者と協議会役 員による計画案審議	策定委員主催者 協議会役員	22	西公民館
3月10日	計画素案説明会	協議会役員、ワークショッ プ委員	41	西公民館
3月15日	振興計画の骨子（考察）配布	八幡校区全員	730	
3月17日	振興計画最終審議	策定委員主催者	10	西公民館
3月中旬 ～3月下旬	地域振興計画の公表（各行政 区の総会時に報告）	策定委員全員、その他		各会場
4月中旬	振興計画書概要版の配布	八幡校区全世帯	730	

八幡校区地域振興計画策定に向けた活動写真

平成２４年度（ＮＯ．１）

１月２８日第２回策定委員会

第２回策定員会後の判別協議

２月１０日コンサルとの協議

３月２５日第３回策定委員会

２月２３日第１回アンケート調査委員会

３月２５日第２回アンケート調査委員会

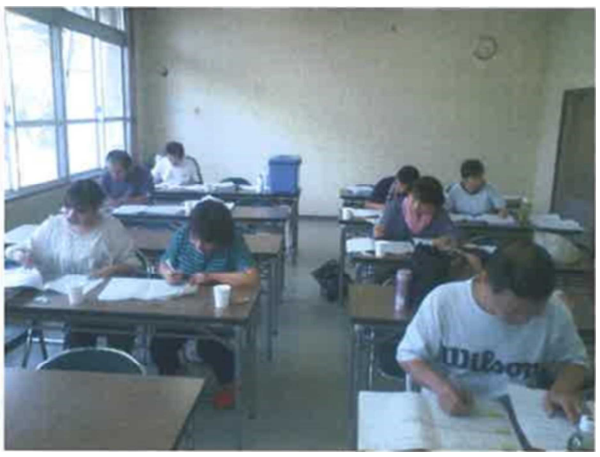
八幡校区地域振興計画策定に向けた活動写真

平成２４年度（ＮＯ．１）

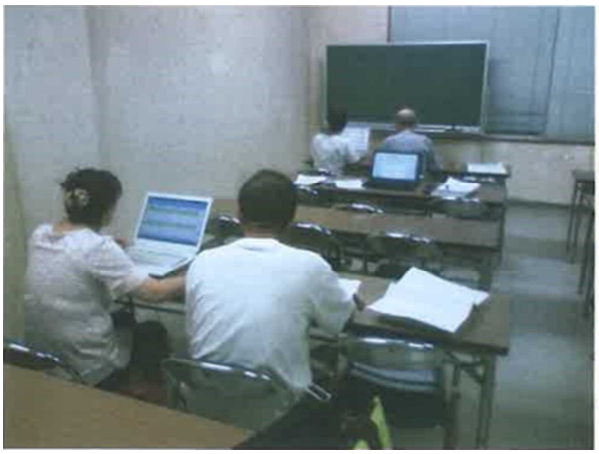
平成２５年６月１８日全体研修会

７月３０日アンケート集約作業

８月１０日アンケート調査、地域実態委員会



８月１７日アンケート集約作業



８月２８日～９月５日アンケート集約作業

９月１０日コーディネーターとの協議

八幡校区地域振興計画策定に向けた活動写真

平成２４年度（ＮＯ．２）

９月１７日第１回ワークショップ（木鶏書院）

１０月１日第２回ワークショップ（八幡小学校体育館）

１２月３日第３回ワークショップ（西公民館）

八幡校区地域振興計画策定に向けた活動写真

平成２４年度（ＮＯ．３）

平成２６年１月２６日
コーディネーターとの協議

２月１０日アンケート結果
及びＷＳ集約報告会

３月１０日計画素案説明会及び主要施策グループ審議

３月１７日振興計画最終審議